

スポーツ庁再委託事業

令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業)

「発達障害児とその母親を対象とした水泳教室」

事業報告書

令和3年2月

Swimmy 株式会社

令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業)
「発達障害児とその母親を対象とした水泳教室」
事業報告書

目次

本事業の目的	1
1. 本事業の実施概要	2
(1) 本事業のターゲット	2
(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	3
(3) 本事業で期待される効果	6
2. 本事業の実施内容	8
(1) 事業の実施概要	8
(2) 事業の実施結果	10
3. 本事業の実施体制	27
(1) 本事業の実施体制	27
(2) 本事業の実施スキーム	27
4. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）	28
(1) 効果検証方法	28
(2) 効果検証の結果	29
5. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）	36
6. 本事業から得られた波及効果	46
7. 今後の事業展開予定	50
(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題	50
(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画	51
(3) 今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組	51
8. 終わりに	52
参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細	53

本事業の目的

本事業は、スポーツ参画人口の拡大に向けて、Sport in Life コンソーシアム加盟団体が連携・協働して実施する取組を後押しするとともに、先進事例を形成することにより、全国各地にスポーツ参画人口の拡大に向けた取組を展開するためのモデルを創出することを目的に実施したものである。

具体的には、発達障害児が水泳を学べる機会や環境を創出することを目的とする。そのため、スイミングスクール、プール指定管理事業者や研究機関（大学）を構成団体に加え、発達障害児やその母親を対象とした「水泳教室」を開催した。加えて、スポーツ施設管理者や指導者を対象とした「指導者研修」を実施した。

事業実施の背景には、企画立案者自身の経験より、発達障害児とその母親のスポーツ実施に関する以下のような課題を実感していたことが挙げられる。

■ 発達障害児

- ・スイミングスクールへの入会を断られる場合がある
- ・グループ行動が苦手な集団レッスンを受けられない
- ・指導者、施設管理者、経営者が発達障害について理解していない
- ・学校体育以外でスポーツ・運動を実施する場が少ない

■ その母親

- ・仕事、家事、学校の送迎等で忙しく、スポーツを行う時間につくれない
- ・子供の現状と将来を考えるのが精一杯で、自分のことを考える余裕がない
- ・子供とスポーツを楽しみたいのだが、どのように楽しめば良いか分からない
- ・子供の教育に費用がかかり、金銭的にスポーツを行う余裕がない

1. 本事業の実施概要

(1) 本事業のターゲット

本事業では、「発達障害児（主に未就学児～小学校低学年）」と「その母親である 30 代～40 代の女性」をターゲットとする。

主な発達障害の種類は、自閉症・アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、情緒障害を想定して水泳教室を実施する。

発達障害児（7～19 歳）にとって水泳が実施率第 1 のスポーツレクリエーションであるため、本事業でも多くの子供の参加が期待できる。※出所：平成 29 年度 スポーツ庁『地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）』

同時に、その母親も参加できる水泳プログラムを提供することにより、子育て中の 30 代～40 代の女性もターゲットとして水泳教室を実施する。

水泳教室の実施場所は、東京都小金井市（栗山公園健康センター）、大阪府大阪市（大阪南ウェルネスセンター）の 2 箇所であるが、本事業のような取り組みは稀なため、東京都や埼玉県、大阪府といった広範囲のエリアに在住する子供と母親をターゲットに設定した。

（２）ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）

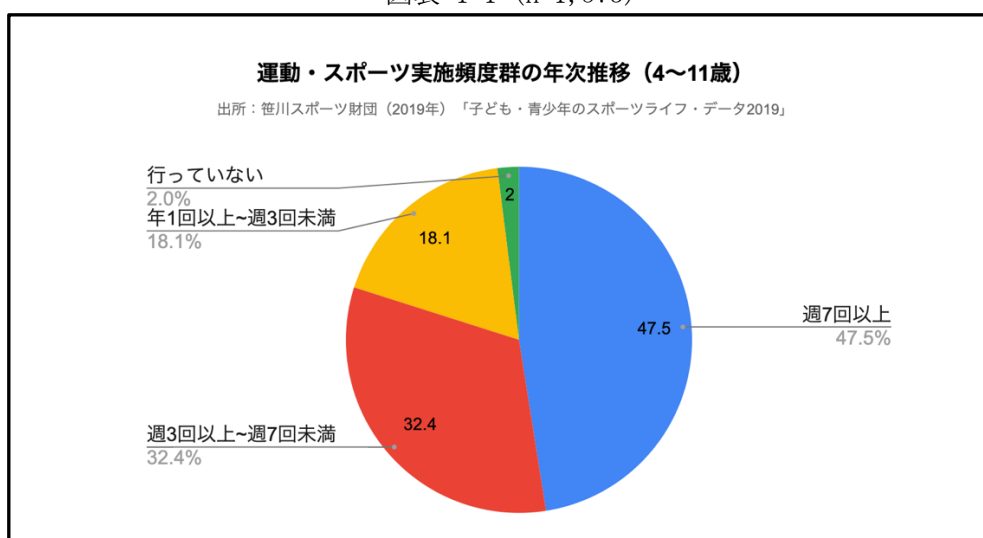
【発達障害児のスポーツ実施を妨げている要因】

１年間で全くスポーツをしていない子供の割合は、子供全体では 2%（図表 1-1）¹であるが、発達障害児に絞ると 33.6%（図表 1-2）²となり、その差は 16.8 倍である。また、週 3 回以上スポーツを実施している子供の割合は、子供全体では 79.9%（図表 1-1）であるが、発達障害児に絞ると 18.4%（図表 1-2）となり、その差は 4.3 倍程度となる。

この格差は、精神的な要因より物理的な要因が大きく関与しているからではないかと考えている。理由は、発達障害児をもつ保護者から当社へ、「発達障害児と伝えたら入会を拒否された為、個人指導を行ってくれる先生を探している」「集団指導に馴染めず、他の子供の迷惑になっていると感じ退会した為、少人数で指導してくれる水泳教室を探している」といった問い合わせが年々増加傾向になるからである。

つまり、スポーツに意欲がある発達障害児に対して、スポーツを実施する場所が不足していることが、スポーツ実施にマイナスの影響を与えていると仮説を立てることができる。

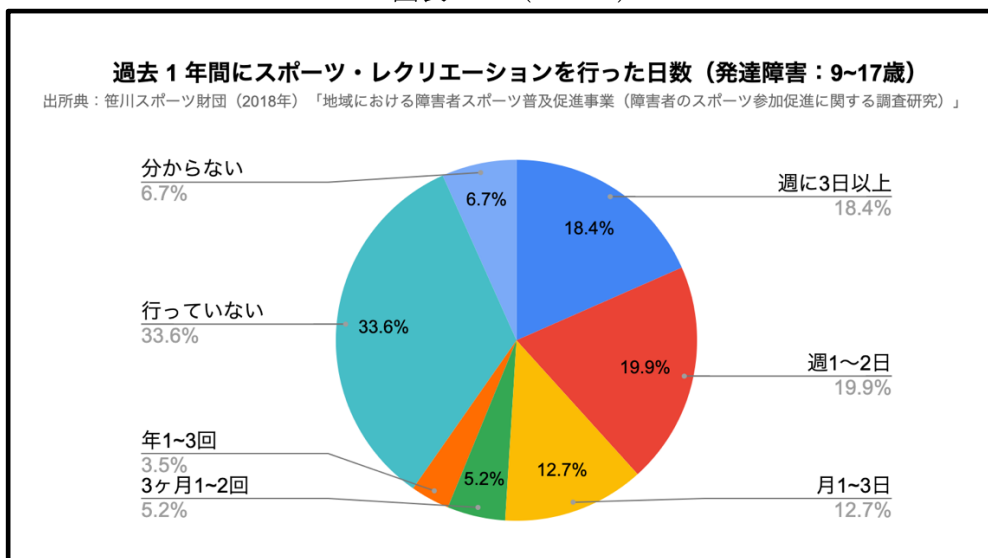
図表 1-1（n=1,573）



¹ 出所：笹川スポーツ財団（2019年）「子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2019」
https://www.ssf.or.jp/thinktank/sports_life/datalist/2019/

² 出所：笹川スポーツ財団（2018年）「地域における障害者スポーツ普及促進事業（障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究）」
https://www.ssf.or.jp/Portals/0/resources/research/report/pdf/2018_report_40.pdf

図表 1-2 (n=598)



本事業のターゲットとしている発達発達障害児のスポーツ（水泳）実施の阻害要因（仮説）は下記の通り。

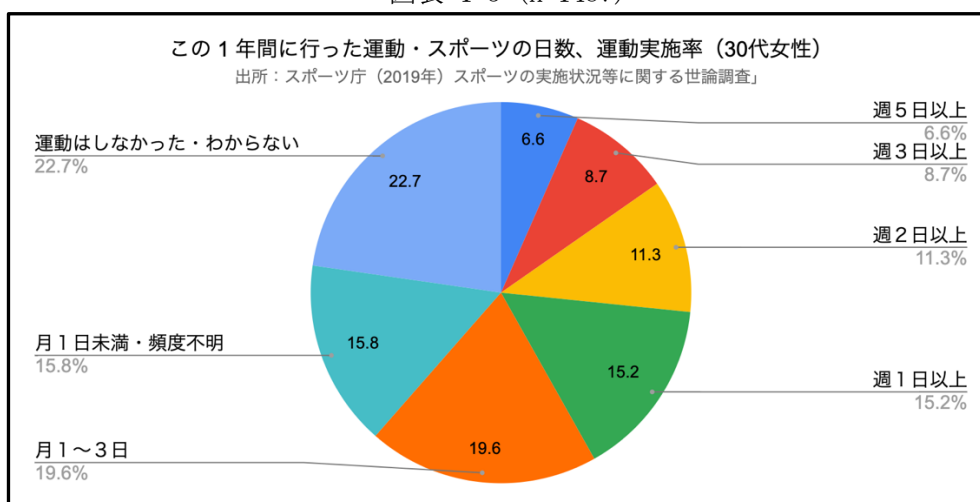
- ・スイミングスクールへの入会を断られることがある
- ・グループ行動が苦手な集団レッスンを受けられない
- ・指導者、施設管理者、経営者が発達障害について理解していない
- ・学校体育以外でスポーツ・運動を実施する場が少ない

【子育て中の 30 代～40 代の女性のスポーツ実施を妨げている要因】

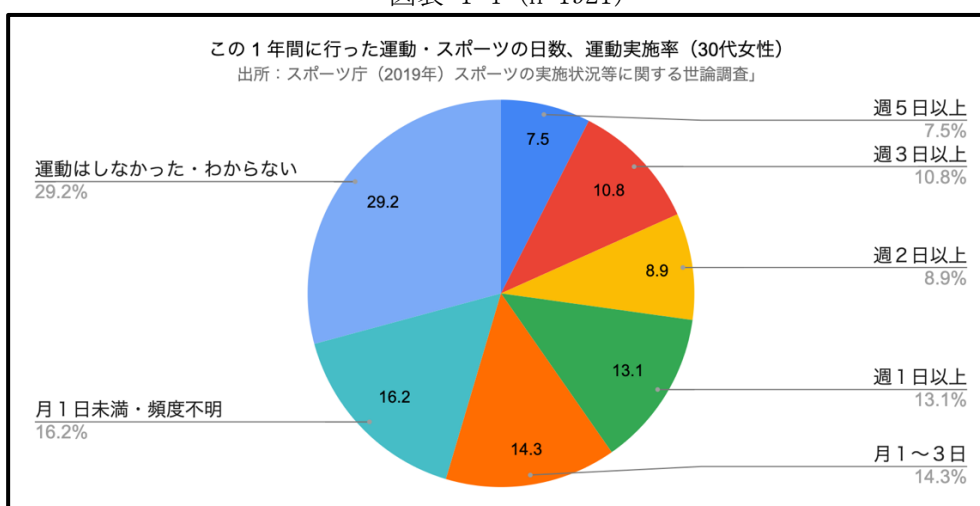
また、同時にターゲットとしている子育て中の 30 代～40 代の女性の週 1 回以上のスポーツ実施率は、男性も含めた世代別の中で最も低い数値となっている。具体的には、30 代女性の週 1 回以上のスポーツ実施率は 41.8%（図表 1-3）³、40 代女性の週 1 回以上のスポーツ実施率は 40.3%（図表 1-4）³である。

³ 出所：スポーツ庁（2019 年）「スポーツの実施状況等に関する世論調査」
https://www.mext.go.jp/sports/content/20200507-spt_kensport01-0000070034_8.pdf

図表 1-3 (n=1487)



図表 1-4 (n=1921)



本事業のターゲットとしている障害児の母親のスポーツ実施の阻害要因（仮説）は下記の通り。

- ・ 仕事、家事、学校の送迎等で忙しく、スポーツを行う時間がつぐれない
- ・ 子供の現状と将来を考えるのが精一杯で、自分のことを考える余裕がない
- ・ 子供とスポーツを楽しみたいのだが、どのように楽しめば良いか分からない
- ・ 子供の教育に費用がかかり、金銭的にスポーツを行う余裕がない

（３）本事業で期待される効果

【発達障害児への期待される効果】

本事業では、発達障害児のスポーツ実施意欲の向上を図るとともに、全プログラム終了後のスポーツの実施状況を調査し、スポーツ実施意欲の向上と習慣化に向けた検証を行う。期待される効果は下記の通り。

①スポーツ実施意欲の向上

- ・プログラムの実施後に「スポーツが好きになった」という児童の割合が 30%以上、「水泳が好きになった」という児童の割合が 50%以上。
- ・プログラムの実施後に、スポーツに対する自信がついたという児童の割合が 30%以上、水泳に対する自信がついたという児童の割合が 50%以上。

②スポーツ実施の習慣化

- ・全プログラム終了後に「スポーツの実施頻度」「スポーツの実施頻度」が増加している児童が 10%以上。

【子育て中の 30 代～40 代の女性への期待される効果】

本事業では、30 代～40 代の女性のスポーツ実施意欲の向上を図るとともに、全プログラム終了後のスポーツの実施状況を調査し、習慣化に向けた検証を行う。期待される効果は下記の通り。

①スポーツ実施意欲の向上

- ・プログラムの実施後に「子供と一緒にプールにいきたい」という母親の割合が 30%以上。

②スポーツ実施の習慣化

- ・全プログラム終了後に、スポーツの実施頻度が増加している母親の割合が 10%以上。

また、ターゲットごとのスポーツ実施の阻害要因/促進要因、事業の実施内容、期待される効果の因果関係は以下の図表（発達障害児：図表 1-5、母親：図表 1-6）の通り。

図表 1-5

スポーツ実施の阻害要因／促進要因	実施内容	期待される効果
発達障害児を受け入れてくれる水泳教室・スイミングスクールが少ない。 新型コロナウイルスの影響でスポーツを実施する場が限定的。	発達障害児向けの水泳教室を実施。 小金井市と大阪市内にて、少人数制の水泳教室を実施する。	スポーツ実施意欲の向上。 少人数制のため個々に合わせたスモールステップを随行することができ、上達する喜びを実感することができる。 スポーツ実施の習慣化。 水泳への自信がつき、スイミングスクールに通うようになる。 母親も参加可能なので、親子でプールに行くことへの抵抗が減少する。
スポーツ施設に発達障害児を指導できるスタッフがいない、ノウハウや仕組みが整っていない。	小金井市と大阪市内にて、発達障害児への水泳指導に関する指導者研修を実施。また、研修資料を作成。 発達障害児向け水泳指導プログラムを作成。	発達障害児を受け入れてくれる水泳教室・スイミングスクールが増加。
保護者や子供もスポーツへの関心はあるが、受け入れてくれるスポーツ教室の情報はどこで収集すれば良いかわからない。	東京都の特別支援小学校、小金井市にある特別支援学級をもつ小学校、東京都特別支援学校PTA連合会、大阪府・京都市・神戸市の特別支援学校、大阪市天王寺区の放課後デイサービス等に電話・FAX・メールで連絡。	より多くの発達障害児が、本プロジェクトに関する情報を得ることができる。

図表 1-6

スポーツ実施の阻害要因／促進要因	実施内容	期待される効果
仕事・家事・学校の送迎等で忙しく、スポーツを行う時間がつかれない。	子供と同じ時間帯に行える水泳教室を実施。 ストレス発散やリラックス効果を目的とした水泳指導を行い、それぞれの目標に合わせたレッスンを行う。	スポーツ実施意欲の向上。 子供と一緒に水泳教室に参加することで、水泳を行うことに対する抵抗が減少。 水泳を行うことで、ストレス発散やリラックス効果を得られる。
子供とスポーツを楽しみたいのだが、どのように教えれば良いかわからない	水泳教室に参加している母親や、見学している保護者に対し、子供とプールに行った際に気をつけるポイントを説明。	スポーツ実施の習慣化。 子供とプールに行った際に気をつけるポイントを学び、実際に指導者の指導方法を見学することで、子供とプールへ行くことへの抵抗が減少。
子供の教育に費用がかかり、金銭的にスポーツを行う余裕がない	子供と同じ時間帯に行える水泳教室を子どもも含め参加費無料で実施。	

2. 本事業の実施内容

(1) 事業の実施概要

発達障害児に対する水泳指導者の不足、安全な指導を行うための知識や経験の不足、またこれらに伴う水泳教室の不足が、スポーツ実施を妨げている要因であると仮説し、これらの要因を解決すべく「水泳教室」と「指導者研修」を実施する。

具体的な事業の実施内容は下記の通り。

事業① 発達障害児&母親向けの水泳教室を開催

発達障害を持つ子供たちが継続的に水泳を学べる機会や環境を創出する。

具体的には、指導者1名に対し生徒3名の少人数制で安全を考慮しながら水泳指導を行う。グループレッスンが難しい子供に対してはマンツーマンでの指導を行う。指導内容としては2つのクラスに分けて「水慣れクラス」と「初級クラス」で泳力別にレッスンを行う。

併せて、発達障害のある子供の母親のための水泳教室を開催。これまで仕事や家事、育児などに追われてスポーツをする時間が取れなかった母親のために、ストレス発散やリラックス効果を目的とした水泳指導を行い、それぞれの目標に合わせたレッスンを行う。

事業② 水泳指導プログラムを作成

発達障害児でも水泳を楽しめ、かつステップアップできる水泳指導プログラム（※別紙①）を作成。実際の水泳指導の際は個々のレベルや個性により臨機応変に対応するが、ここではベースとなる指導プログラムを作成する。

事業③ 指導者研修を実施

スポーツ施設管理者や指導者を対象とした「指導者研修」を実施。発達障害児に関する知識を学び、水泳指導を行う上での注意事項を伝えると共に、指導者目線に立って、具体的な事例を用いて発達障害児に対する接し方や指導法の講義を行い、ロールプレイや個別事例を挙げつつディスカッションを行う。

事業④ 水泳指導の研修資料を作成

発達障害に対する知識・理解を深め、発達障害児への接し方や水泳指導方法を知るための水泳指導者向け研修資料（※別紙②）を作成する。

★ 本事業の新規性

新規性① 「発達障害児」と「母親」が一緒に参加できる水泳教室

発達障害児と母親が一緒に時間帯に参加できる水泳教室を実施することで、母親はスポーツ実施に集中することができる。

新規性② 先生1：生徒3の少人数制水泳教室

発達障害児は集団行動が苦手な場合が多く、スイミングスクールに入会できないといった事例や、入会してもすぐに辞めてしまうという事例が多々ある。この問題を払拭するために、少人数制の教室を開催することで、個々に合わせた対応が可能となり、スポーツ実施意欲の向上が期待できる。

新規性③ 既存のスポーツ施設を有効活用した、発達障害児向けの水泳教室

スポーツ施設管理事業者（株式会社東京アスレティッククラブ）と協働することで、公共スポーツ施設を有効活用することができる。また、施設（プール）というハードはあるものの、発達障害児を対象とした水泳教室を実施している公共スポーツ施設は少ないため、

本事業により地域のスポーツ施設で発達障害児向けのスポーツ教室を実施するという文化を拡げていきたい。

（２）事業の実施結果

事業① 発達障害児向け&母親向けの水泳教室

発達障害児とその母親を対象とした水泳教室を開催した。

<第一回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
開催日時	2020 年 10 月 17 日（土）14:30～15:30
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	14:15 受付開始（栗山公園健康運動センター内にてお待ち合わせ） 着替え 14:30 準備運動 参加者の現状把握 14:40 レッスン開始 （子供：初級クラスにて水泳レッスン、母親：お子様とは別で水中歩行と水泳レッスン） 15:30 レッスン終了、挨拶 15:30 片付け、着替え 15:45 終了
参加者概要	参加者：2名 ・小学校1年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・母親 1名
所感	周知する時間に余裕がなく、第1回目の参加数は2名という結果だった。しかし、少人数制で母親も参加できる水泳教室にとっても満足してもらった。次回は周知を早めに行い、さらに多くの方に参加していただけたようにしたい。

<第二回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
----	------------------

開催日時	2020 年 11 月 7 日（土） 14:30～15:30
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	14:15 受付開始（栗山公園健康運動センター内にてお待ち合わせ） 着替え 14:30 準備運動 参加者の現状把握 14:40 レッスン開始 （子供：初級クラスにて水泳レッスン、母親：お子様とは別で水中歩 行と水泳レッスン） 15:30 レッスン終了、挨拶 15:30 片付け、着替え 15:45 終了
参加者概要	参加者：4 名 ・小学校 4 年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達 障害（ASD）） ・小学校 1 年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 3 年生 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校 4 年生 男子（その他の障害：血友病）
所感	第 2 回目の参加数は 4 名で、参加者、その親御様にも大変満足していただ けた。 参加者の障害レベルは事前に保護者から聞いていたが、生徒は実際にプール を目の前にすると普段以上に興奮している様子だった。障害レベル、理解度レ ベルによってはマンツーマン指導に切り替えて、個々に合わせてレッスンをす る必要があると感じた。

<第三回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
開催日時	2020 年 11 月 15 日（日） 14:30～15:30、16:15～17:15
開催場所	大阪「大阪南 YMCA ウエルネスセンター 6 階プール」

対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	【①第1部 14:30 開始】【②第2部 16:15 開始】 ①14:15／②16:00 受付開始・着替え ①14:30／②16:15 準備運動・参加者の現状把握 ①14:40／②16:25 レッスン開始（子供：水慣れ・水遊びクラス、初級クラスにて水泳レッスン） ①15:30／②17:15 レッスン終了・挨拶 ①15:35／②17:20 片付け・着替え ①15:45／②17:30 終了
参加者概要	参加者：2名 ・小学校2年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・小学校1年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD））
所感	風邪等で2名の欠席があったものの、参加した児童、その親御様には大変満足していただけた。 同じ自閉スペクトラム症でも全く違った障害レベルで、それぞれのお子様の個性があり、指導方法もだいぶ異なるものとなった。 今回は人数が少なかったため、個人レッスンで本人の意思を尊重しながら指導が行えた。しかし、少人数でもグループレッスンとなると子供の反応やレッスンに対する姿勢が変わってくるため、指導スタッフとは別に迅速な対応ができる指導者を確保することが重要になりそうだ。 水泳教室の前に、大阪 YMCA が月に2回行っているエンジェルスイミング（知的障害のある子供たちの水泳教室）を見学した。障害のレベルや水泳レベルに合わせてマンツーマンでの指導を行っていた。参加者は水中の心地よさや楽しさなどを実感している様子で、個々の生徒のやりたい事を尊重した内容になっていた。

<第四回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
開催日時	2020年11月29日（土）14:30～15:30、15:30～16:30

開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	【①第1部 14:30 開始】【②第2部 15:30 開始】 ①14:15／②15:15 受付開始・着替え ①14:30／②15:30 準備運動・参加者の現状把握 ①14:40／②15:40 レッスン開始 (子供：水慣れ・水遊びクラス、初級クラスにて水泳レッスン、母親：水中歩行 他) ①15:30／②16:30 レッスン終了・挨拶 ①15:35／②16:35 片付け・着替え ①15:45／②16:45 終了
参加者概要	参加者：11 名 ・小学校4年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・小学校1年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・小学校1年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校2年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校3年生 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校4年生 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校1年生 男子（その他の障害：ダウン症） ・小学校4年生 男子（その他の障害：血友病） ・母親3名
所感	第4回目の参加数は11名で、過去最大の人数となった。 今回は参加人数も増えたため、水慣れクラスと初級クラスを時間差で実施した。その効果もあり、水慣れクラスでは水慣れを中心に水泳を楽しむことができ、初級クラスでは泳げるようになるための本格的な指導ができた。今回はお母様参加も3名ということで、普段運動をされないお母様にも水中でのリラックス効果や水圧による運動効果を感じて頂けた。

<第五回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
----	------------------

開催日時	2020 年 12 月 6 日（日） 14:30～15:30、15:45～16:45
開催場所	大阪「大阪南 YMCA ウエルネスセンター 6 階プール」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	【①第 1 部 14:30 開始】【②第 2 部 15:45 開始】 ①14:15／②15:30 受付開始・着替え ①14:30／②15:45 準備運動・参加者の現状把握 ①14:40／②15:55 レッスン開始（子供：水慣れ・水遊びクラス、初級クラスにて水泳レッスン） ①15:30／②16:45 レッスン終了・挨拶 ①15:35／②16:50 片付け・着替え ①15:45／②17:00 終了
参加者概要	参加者：9 名 ・小学校 1 年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・小学校 2 年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD））計 5 名 ・小学校 2 年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 4 年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 1 年生 男子（発達の遅れが気になる）
所感	大阪は不要不急の外出自粛要請が出たものの、9 名の子供達が参加し、参加した児童とその親御様には大変満足していただけた。 お友達がいることで今までできなかったことができるようになるなど相乗効果を発揮している児童もいた。また、今までスイミングスクールではうまく行かず、水泳を諦めてきた児童も楽しくレッスンを受けていた様子で親御様からも大人数のグループレッスンよりも指示が入っているという声が聞けた。 指導者研修では発達障害児と接したことのある方も全く接したことのない方も実際の事例を使って指導者目線で一緒に考えることができた。

<第六回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
----	------------------

開催日時	2020 年 12 月 13 日（日） 14:30～15:30、16:00～17:00
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	【①第 1 部 14:30 開始】【②第 2 部 16:00 開始】 ①14:15／②15:45 受付開始・着替え ①14:30／②16:00 準備運動・参加者の現状把握 ①14:40／②16:10 レッスン開始 （子供：水慣れ・水遊びクラス、初級クラスにて水泳レッスン、母親：水中歩行 他） ①15:30／②17:00 レッスン終了・挨拶 ①15:35／②17:05 片付け・着替え ①15:45／②17:10 終了
参加者概要	参加者：10 名 ・小学校 4 年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・小学校 5 年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・幼児（6 歳） 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 1 年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 3 年生 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校 4 年生 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校 4 年生 男子（その他の障害：血友病） ・小学校 4 年生（その他の障害：HSC 傾向） ・母親：2 名
所感	第 6 回目は申し込み者が過去最多となり、当日欠席はあったものの 10 名の参加者が集まった。 今回は参加者の年齢と障害レベルを考慮し、前半と後半に分けてのレッスンを行った。参加する前は不安を感じていた子供もプールに入ると先生の話をよく聞き、レッスンに集中できていた。今回参加していただいたお母様は 2 名とも泳ぎのレッスンを希望されていたので、しっかりと 1 時間のレッスンを行った。普段、家事や子育て、仕事などで忙しいお母様も子供を先生に預け、ご自身のレッスンに集中されている様子で、満足度も高かった。 また、指導者研修では、発達障害児と接したことのない方にとっては新し

	い学びの場となり、接したことのある方にとっては、より障害について理解を深める機会になったのではないかと思います。
--	--

<第七回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
開催日時	2020 年 12 月 20 日（日） 14:30～15:30、16:00～17:00
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	【①第 1 部 14:30 開始】【②第 2 部 16:00 開始】 ①14:15／②15:45 受付開始・着替え ①14:30／②16:00 準備運動・参加者の現状把握 ①14:40／②16:10 レッスン開始 （子供：水慣れ・水遊びクラス、初級クラスにて水泳レッスン、母親：水中歩行 他） ①15:30／②17:00 レッスン終了・挨拶 ①15:35／②17:05 片付け・着替え ①15:45／②17:10 終了
参加者概要	参加者：9 名 ・小学校 4 年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・小学校 5 年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・幼児（6 歳） 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 1 年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 2 年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校 3 年生 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校 4 年生（その他の障害：血友病） ・母親：2 名
所感	第 7 回目は当日欠席者はいたものの 9 名の参加となった。 参加してくれている子供たちの中には 2 回目以降の参加者もあり、少しずつレッスンの中でも上達を感じられている。スイミングスクールではできな

	かった1人1人の子供と向き合った丁寧な指導が、子供たちの心の成長にも繋がっていると感じた。 一方で、水泳が楽しくてプールから上がりたくない、という子供に対してのアプローチの仕方が難しく、終了時間を大幅に超えての退水となってしまった。本人も終了時間がきたことは認識しており、上がらなければいけないとわかっているにもかかわらず、という気持ちが現れているので、指導者側もうまく誘導できないもどかしさがあった。今後、このような子供が参加した時の対策やアプローチ方法については考えていきたい。
--	---

<第八回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
開催日時	2021年1月9日（日）14:30～15:30、16:00～17:00
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	【①第1部 14:30 開始】【②第2部 16:00 開始】 ①14:15／②15:45 受付開始・着替え ①14:30／②16:00 準備運動・参加者の現状把握 ①14:40／②16:10 レッスン開始 （子供：水慣れ・水遊びクラス、初級クラスにて水泳レッスン、母親：水中歩行 他） ①15:30／②17:00 レッスン終了・挨拶 ①15:35／②17:05 片付け・着替え ①15:45／②17:10 終了
参加者概要	参加者：9名 ・小学校5年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・幼児 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校1年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校2年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・幼児 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校3年生 男子（発達の遅れが気になる） ・小学校4年生 男子（その他の障害：血友病）

	・母親：2名
所感	第8回目は、水泳教室の2日前に新型コロナウイルス感染症増加の影響で国からの緊急事態宣言が発令されたことにより、保護者の仕事場での行動制限や県外への外出自粛などの理由で欠席はあったものの、9名の方に参加していただいた。 今回初めて参加してくれた参加者からは、障害に対して理解のある指導者で安心して参加ができた、という嬉しいお言葉をいただきました。スイミングスクールで入会を断られることも多い発達障害の子供たちだが、このような水泳教室があれば続けて参加したい、と言ってくれる方が多い。 レッスンに参加しているお母様も、子供は先生に預けて自分のレッスンに集中することができており、思いっきり楽しめている様子だった。

<第九回>

名称	発達障害児とその母親向け水泳教室
開催日時	2021年1月23日（土）14:30～15:30、16:00～17:00
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
対象者	発達障害児 その母親
アジェンダ	【①第1部 14:30 開始】【②第2部 16:00 開始】 ①14:15／②15:45 受付開始・着替え ①14:30／②16:00 準備運動・参加者の現状把握 ①14:40／②16:10 レッスン開始 （子供：水慣れ・水遊びクラス、初級クラスにて水泳レッスン、母親：水中歩行 他） ①15:30／②17:00 レッスン終了・挨拶 ①15:35／②17:05 片付け・着替え ①15:45／②17:10 終了
参加者概要	参加者：9名 ・小学校5年生 男子（自閉症、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害（ASD）） ・幼児（6歳） 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校1年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・小学校2年生 男子（注意欠陥・多動性障害（ADHD）） ・幼児（6歳） 男子（発達の遅れが気になる）

	・ 小学校 3 年生 男子（発達の遅れが気になる） ・ 小学校 4 年生 男子（その他の障害：血友病） ・ 母親：2 名
所感	第 9 回目の参加者は 9 名。今回プールには来たものの 1 名の児童がプールに入れず欠席となった。 毎回参加してくれている児童の中に、プールの端から端までクロールで泳げるようになった児童が 3 名もいた。この水泳教室が始まった当初は全く泳げなかった児童が、水泳を通して諦めなければできるということを学んでくれたのではないかなと思う。 保護者の方々からも「この水泳教室のおかげです」「続けないと忘れてしまうのでこれからもプールに行って練習しないといけませんね」と前向きなお言葉もいただけた。この事業を通して、継続して水泳を続けたり、他のスポーツを始めるきっかけになれば良いと感じた。

図表 2-1 当日の写真



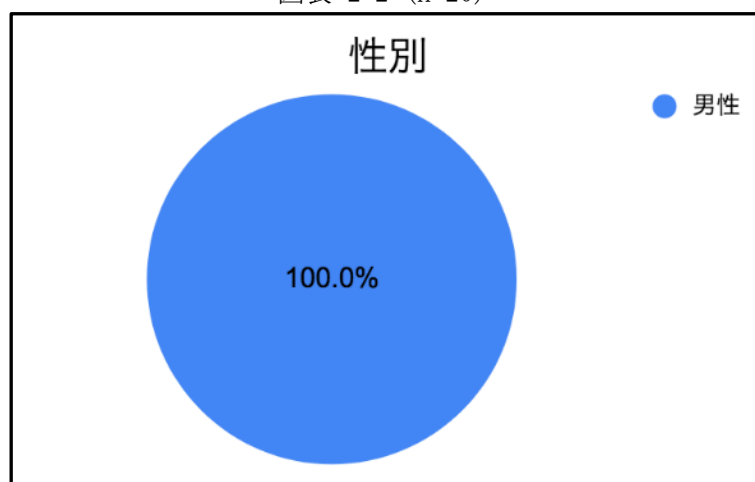
【発達障害児へ事前アンケート調査結果】

参加者の性別は図表 2-2、学年は図表 2-3 の通り。

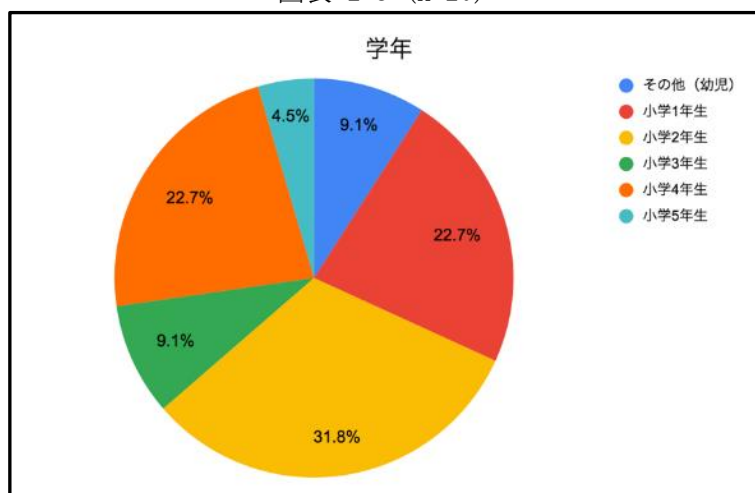
本事業に参加した発達障害児は、男子のみで 20 名（重複無し）であった。

学年では「小学 2 年生」が 31.8%と一番割合が多く、次いで「小学 1 年生」と「小学 4 年生」が 22.7%、「小学 3 年生」と「その他（幼児）」が 9.1%、「小学 5 年生」が 4.5%であった。小学校低学年と高学年で分類すると、低学年は 63.6%に対し、高学年は 27.2%であった。

図表 2-2 (n=20)



図表 2-3 (n=20)

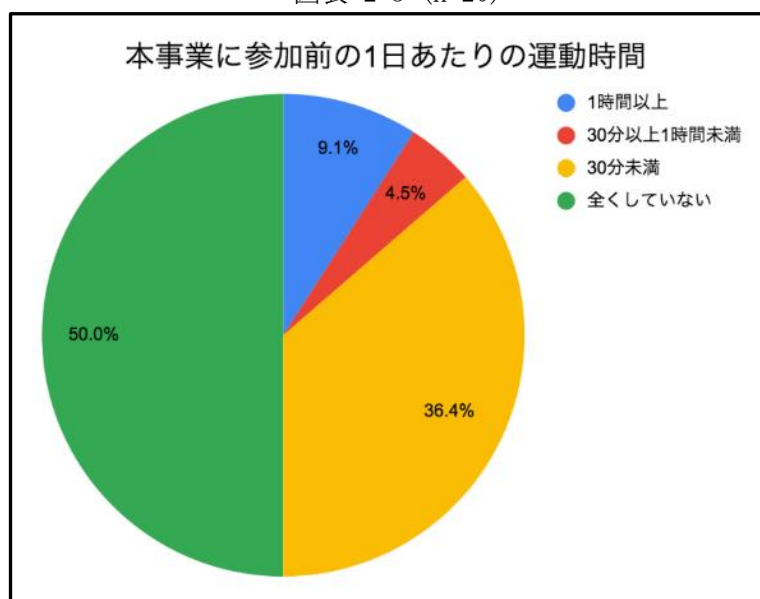


本事業に参加前の1日あたりの運動時間を図表 2-3 に示し、運動頻度を図表 2-4 に示す。

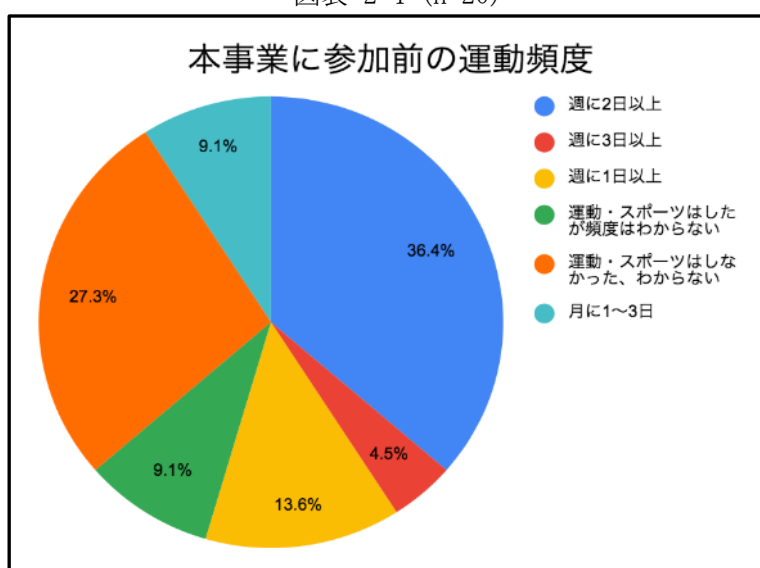
1日あたりの運動時間（図表 2-3）は、「全くしていない」が一番割合の多い50%であり、「1時間以上」は9.1%であった。

運動頻度（図表 2-4）は、「週に2日以上」が一番割合の多い36.4%であり、次いで「運動・スポーツはしなかった、わからない」が27.3%であった。一番割合が少ないものは「週に3日以上」で4.5%であった。

図表 2-3 (n=20)

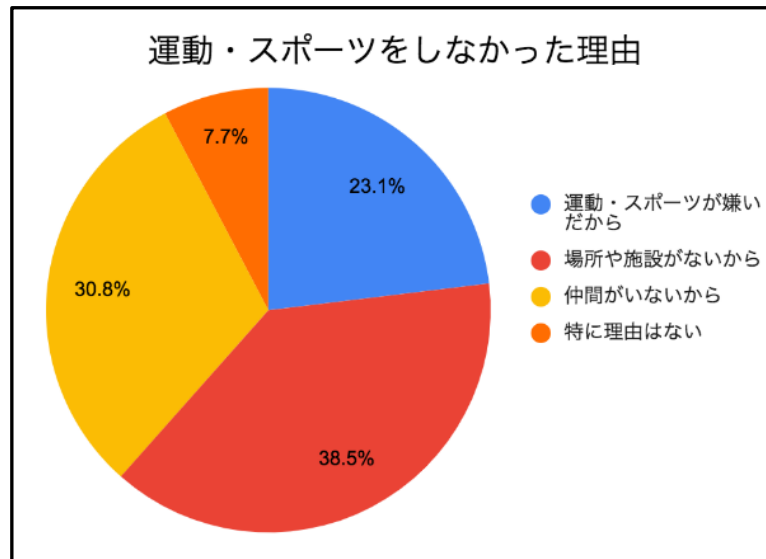


図表 2-4 (n=20)



運動・スポーツをしなかった理由は、図表 2-5 に示した。「場所や施設がないから」が一番割合の多い 38.5%であった。

図表 2-5 (n=20)

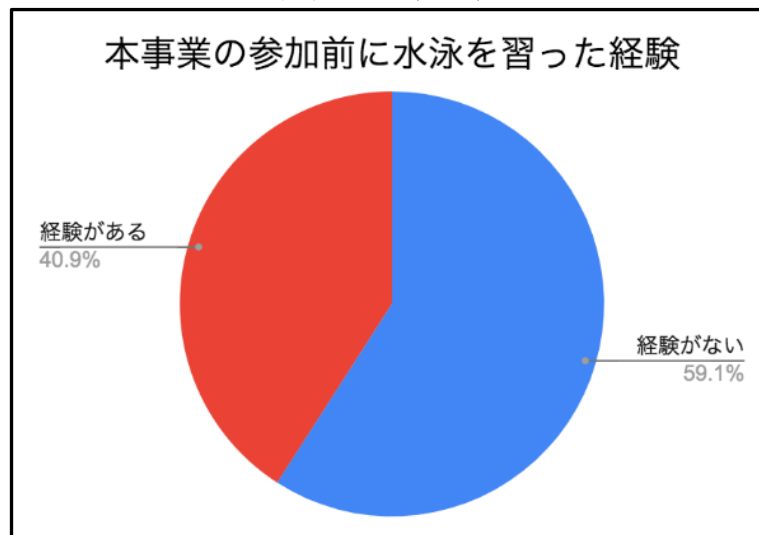


本事業の参加前に水泳を習った経験は図表 2-6 に、水泳を始められなかった理由は図表 2-7 にそれぞれ示した。

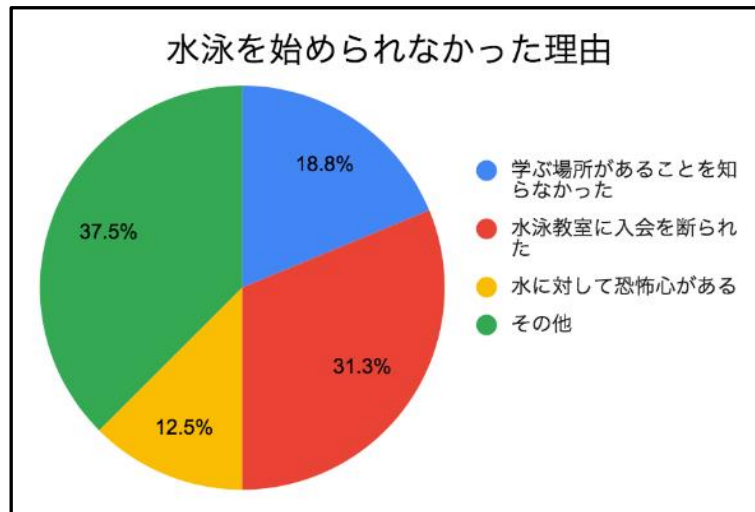
本事業の参加前に水泳を習った経験（図表 2-6）は、「経験がある」が 40.9%、「経験がない」は 59.1 であった。

水泳を始められなから理由（図表 2-4）は、「その他」が一番割合が多く 37.5%、次いで「水泳教室に入会を断られた」が 31.3%であった。

図表 2-6 (n=20)



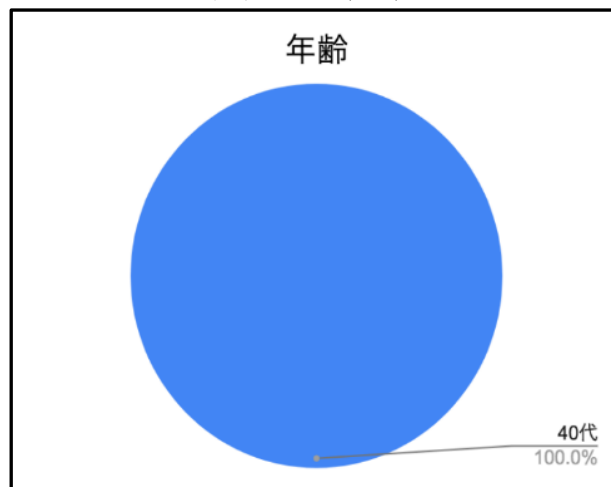
図表 2-7 (n=20)



【子育て中の30代～40代の女性への期待される効果】

参加者の年代は、図表 2-8 に示した通りであり、「40代」が100%であった。

図表 2-8 (n=5)

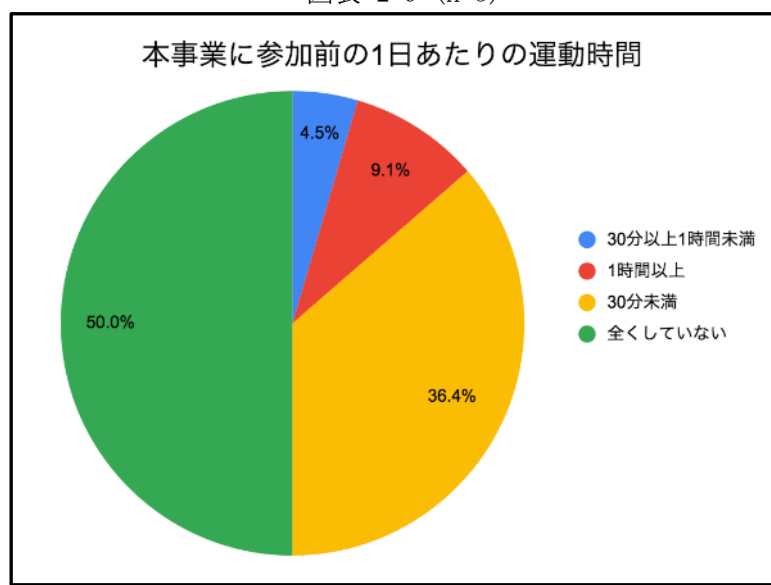


本事業に参加前の1日あたりの運動時間を図表 2-9 に示し、運動頻度を図表 2-10 に示した。

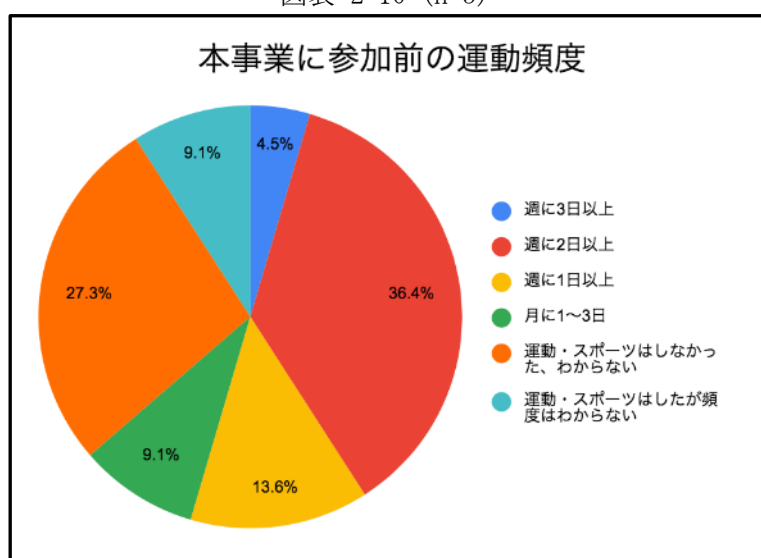
1日あたりの運動時間（図表 2-9）は、「全くしていない」と「30分未満」の割合が同率で一番多く40%、「1時間以上」は20%であった。

運動頻度（図表 2-10）は、「運動・スポーツはしなかった、わからない」が一番割合の多い40%であった。

図表 2-9 (n=5)



図表 2-10 (n=5)



事業② 水泳指導プログラムの作成

発達障害を持つ子供たちが継続的に水泳を学ぶことができ、段階的に水慣れや泳力の向上を目指した水泳指導プログラムを作成した。作成したプログラムは「別紙①」を参照。プログラムの特徴は、以下の通りであった。

- ・ 障害の特性や個性を把握した上での指導
- ・ マンツーマンではなく、少人数制を採用

- ・指導者以外にも監視員を入れ、安全な環境を整備

事業③ 指導者研修の実施

スポーツ施設管理者や指導者を対象とした「指導者研修」を実施した。

<第一回>

名称	発達障害児への水泳指導における指導者研修
開催日時	11/7（土）
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
アジェンダ	【発達障害の子供向け水泳指導について 講師：坂本奈穂】 ・発達障害について（発達障害の種類、特性、配慮ポイント） ・発達障害児に水泳指導をする前の事前準備 ・発達障害児に指導する際のポイント ・水泳で得られる効果とは ・最後に（レッスン環境について）
参加者概要	水泳インストラクター 3名

<第二回>

名称	発達障害児への水泳指導における指導者研修
開催日時	11/29（日）
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
アジェンダ	【発達障害の子供向け水泳指導について 講師：坂本奈穂】 ・発達障害について（発達障害の種類、特性、配慮ポイント） ・発達障害児に水泳指導をする前の事前準備 ・発達障害児に指導する際のポイント ・水泳で得られる効果とは ・最後に（レッスン環境について）
参加者概要	水泳インストラクター 3名

<第三回>

名称	発達障害児への水泳指導における指導者研修
開催日時	12/6（日）
開催場所	大阪「大阪 YMCA」
アジェンダ	【発達障害の子供向け水泳指導について 講師：坂本奈穂】 ・発達障害について（発達障害の種類、特性、配慮ポイント）

	・発達障害児に水泳指導をする前の事前準備 ・発達障害児に指導する際のポイント ・水泳で得られる効果とは ・最後に（レッスン環境について）
参加者概要	水泳インストラクター 6名 幼児教育関係者 2名

<第四回>

名称	発達障害児への水泳指導における指導者研修
開催日時	12/13（日）
開催場所	東京「栗山公園健康運動センター」
アジェンダ	【発達障害の子供向け水泳指導について 講師：坂本奈穂】 ・発達障害について（発達障害の種類、特性、配慮ポイント） ・発達障害児に水泳指導をする前の事前準備 ・発達障害児に指導する際のポイント ・水泳で得られる効果とは ・最後に（レッスン環境について）
参加者概要	水泳インストラクター 3名

事業④ 指導研修の資料を作成

指導員やスポーツ施設管理者が、発達障害に対する知識・理解を深め、発達障害児への接し方や水泳指導方法を知るための水泳指導者向け研修資料を作成した。作成した研修資料は「別紙②」を参照。研修内容の特徴は、以下の通りであった。

- ・発達障害への理解を深める
- ・水泳指導を行う際の留意点としての事前準備を学ぶ
- ・実際に水泳指導を行う際の、安全面と技能面のポイントについて、具体例を用いて理解する
- ・水泳で得られる心身への効果について学ぶ
- ・レッスン時の指導環境についての確認

3. 本事業の実施体制

(1) 本事業の実施体制

本事業の実施体制は下記の通り。

実証フィールド	栗山公園健康運動センター、大阪南 YMCA ウェルネスセンター
代表団体	Swimmy 株式会社
構成団体	公益財団法人大阪 YMCA*、東京学芸大学、株式会社東京アスレティッククラブ、株式会社 RASCAL' s*、2H-Design*
構成団体以外の参画団体	

※ 「*」は Sport in Life コンソーシアム加盟団体

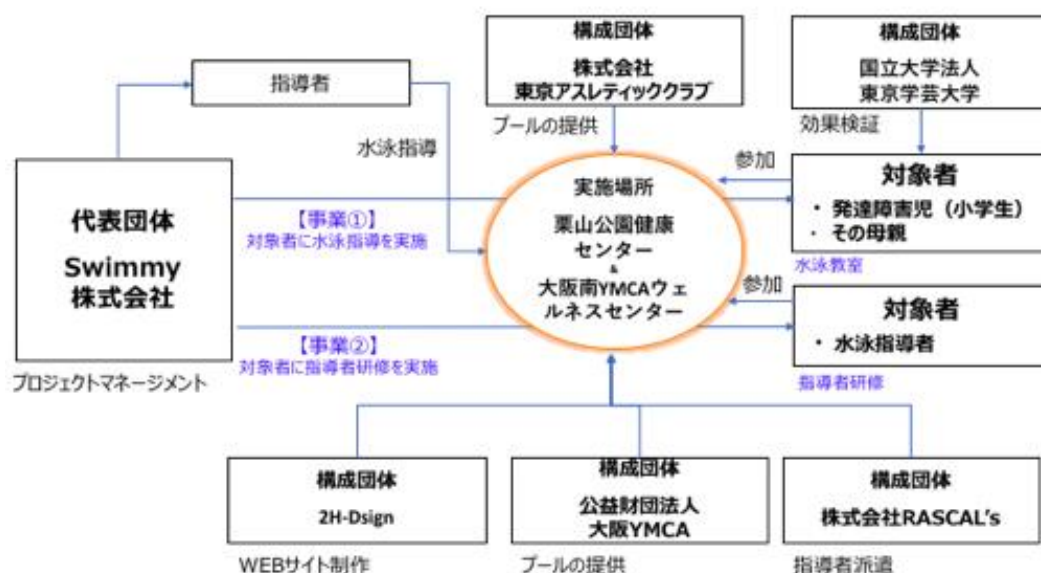
(2) 本事業の実施スキーム

本事業における代表団体、構成団体、その他参画団体の役割は下記の通り。

「事業①発達障害児向け&母親向けの水泳教室」及び「事業③指導者研修」は、代表団体 Swimmy 株式会社を中心となって、構成団体東京アスレティッククラブが指定管理するスポーツ施設と構成団体大阪 YMCA が有するスポーツ施設を活用して実施する。

「事業②発達障害児向け水泳指導プログラム作成」及び「事業④発達障害児向け水泳指導の研修資料作成」は、代表団体 Swimmy 株式会社を中心となって、東京学芸大学が有する実験結果やノウハウを活用して作成する。

図表 3-1 プロジェクトスキーム図



4. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）

（1）効果検証方法

【発達障害児への実施効果】

発達障害児に対して実施した事業の効果を検証するために、下記のような考え方で事前、事後、追跡調査を行い、スポーツへの取組意欲向上、及び習慣化に関する効果検証を実施した。

期待される効果と検証方法は下記の通り。

図表 4-1 期待される効果と検証方法

期待される効果	検証方法
スポーツの実施意欲の改善	水泳教室参加前（事前調査）と水泳教室参加後（事後調査）にアンケート調査を実施し、水泳教室参加前後におけるスポーツへの取組意欲について比較分析を行い、スポーツの実施意欲改善効果を検証。
スポーツ実施の習慣化	水泳教室参加前（事前調査）と水泳教室参加後（事後調査）、及び全教室終了後（追跡調査）にアンケート調査を実施し、スポーツ実施頻度について比較分析を行い、スポーツ習慣の定着効果を検証。

【子育て中の 30 代～40 代の女性への実施効果】

子育て中の 30 代～40 代の女性に対して実施した事業の効果を検証するために、下記のような考え方で事前、事後、追跡調査を行い、スポーツへの取組意欲向上、及び習慣化に関する効果検証を実施した。

期待される効果と検証方法は下記の通り。

図表 4-2 期待される効果と検証方法

期待される効果	検証方法
スポーツの実施意欲の改善	水泳教室参加前（事前調査）と水泳教室参加後（事後調査）にアンケート調査を実施し、水泳教室参加前後におけるスポーツへの取組意欲について比較分析を行い、スポーツの実施意欲改善効果を検証。
スポーツ実施の習慣化	水泳教室参加前（事前調査）と水泳教室参加後（事後調査）、及び全教室終了後（追跡調査）にアンケート調査を実施し、スポーツ実施頻度について比較分析を行い、スポーツ習慣の定着効果を検証。

(2) 効果検証の結果

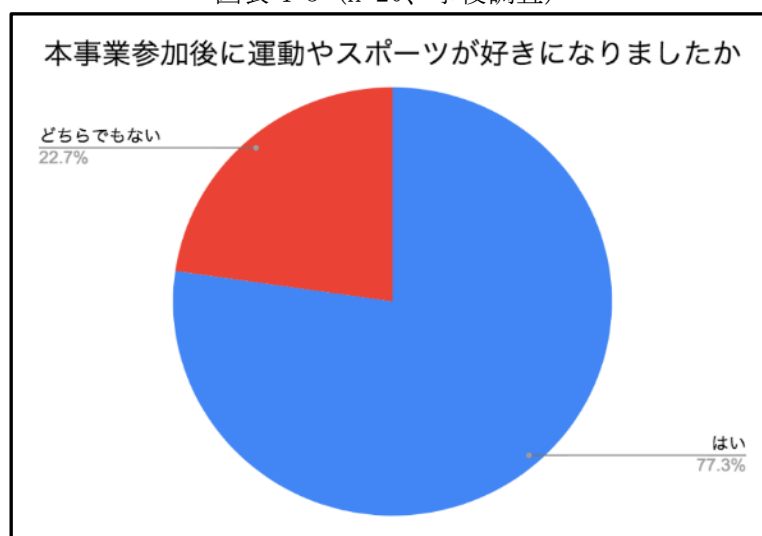
【発達障害児への実施効果】

発達障害児に対して期待される効果の検証結果は下記の通り。

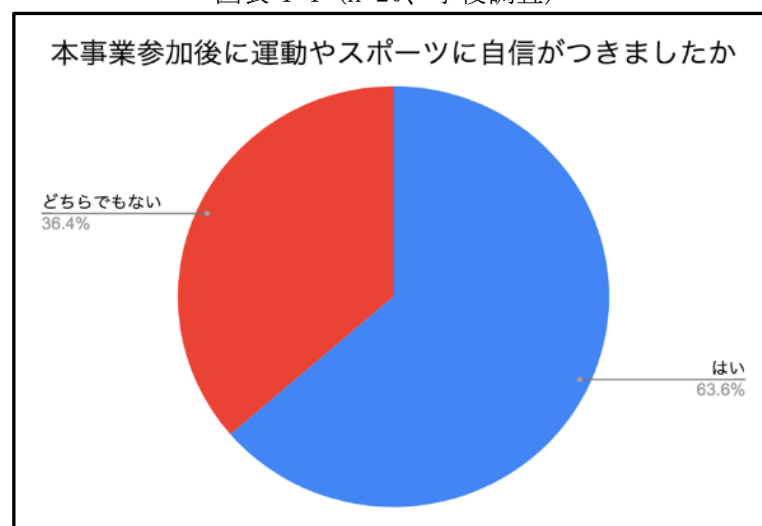
①スポーツの実施意欲の改善効果

スポーツの実施意欲に関する設問において、「本事業参加後（事後調査）に運動やスポーツが好きになった」という割合は 77.3%、「運動やスポーツに自信がついた」という割合は 63.3%となっており、スポーツ実施意欲の改善が見られた。

図表 4-3（n=20、事後調査）

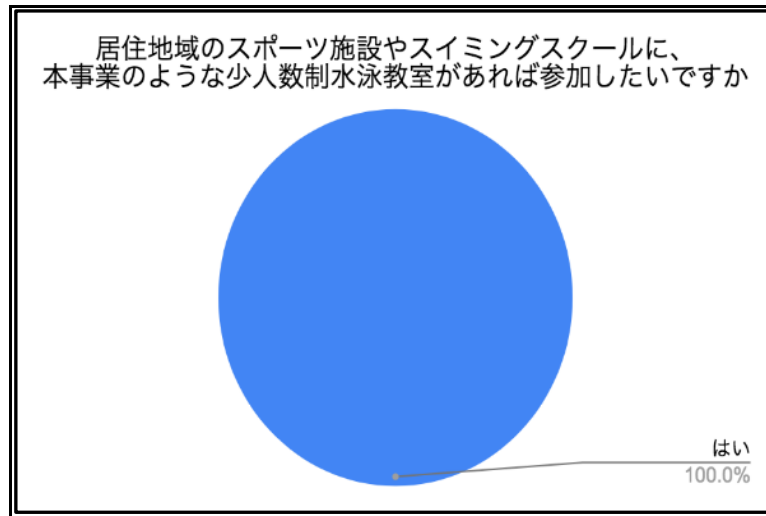


図表 4-4（n=20、事後調査）



また、「居住地域のスポーツ施設やスイミングスクールに、本事業のような少人数制水泳教室があれば参加したい」という割合は 100%であった。

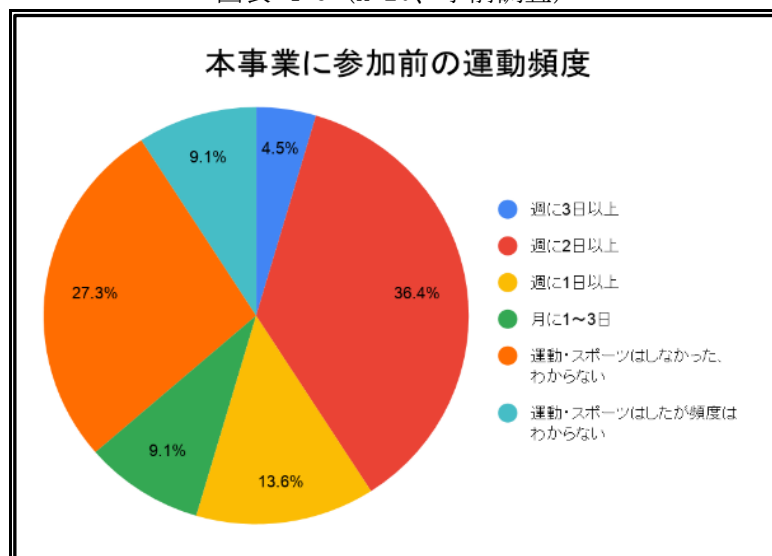
図表 4-5 (n=20、事後調査)



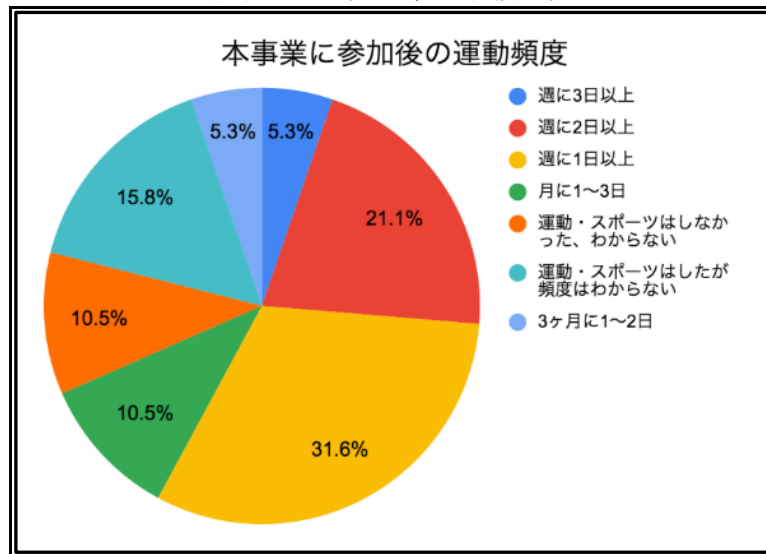
②スポーツ実施習慣の定着効果

スポーツの実施頻度に関する設問において、「週 1 日以上スポーツを実施している児童の割合（週 1 日、2 日、3 日以上の合算）」は 54.8%（事前）から 58.0%へ（追跡）と微増していた。また、「運動・スポーツはしなかった、わからない」が 27.3%から 10.5%へと減少し、「運動・スポーツはしたが頻度はわからない」が 9.1%から 15.8%へと増加していた。以上をまとめると、水泳教室後におけるスポーツ実施習慣の定着は、一定程度見られたものと思われる。

図表 4-6 (n=20、事前調査)

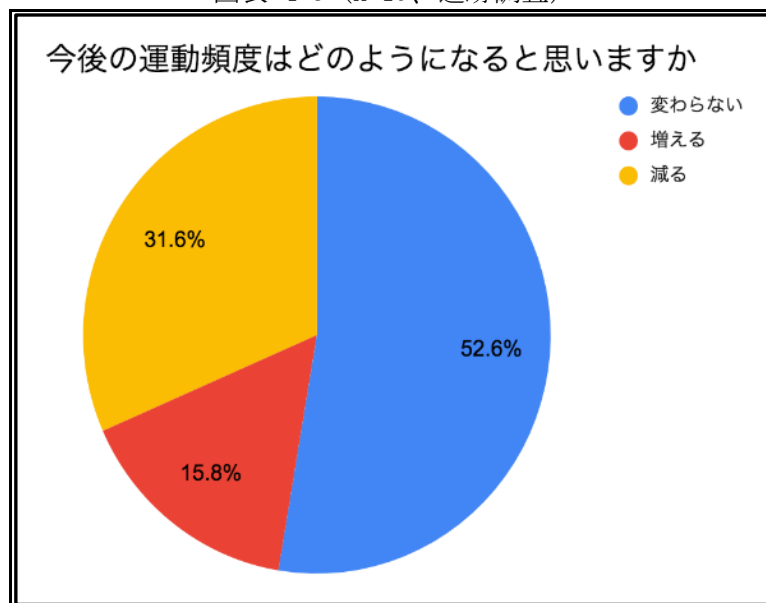


図表 4-7 (n=19、追跡調査)



一方で、スポーツの実施頻度に関する設問において、「今後の運動頻度は変わらないと思う」と回答した割合が一番多く 52.6%であり、次いで「今後の運動頻度は減ると思う」と回答した割合が割合は 31.6%、「今後の運動頻度は増えると思う」と回答した割合は 15.8%であった。すなわち、今回のような教室を断続的に継続している間の運動習慣の定着は期待できるものの、「教室」という運動ができる場がなくなることによって、一定数の方から運動実施頻度の低下を招来すると推察される。

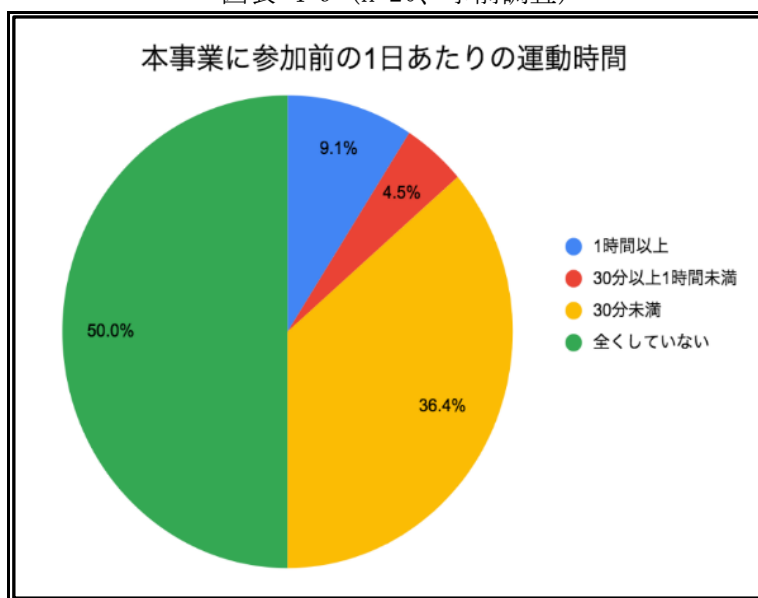
図表 4-8 (n=19、追跡調査)



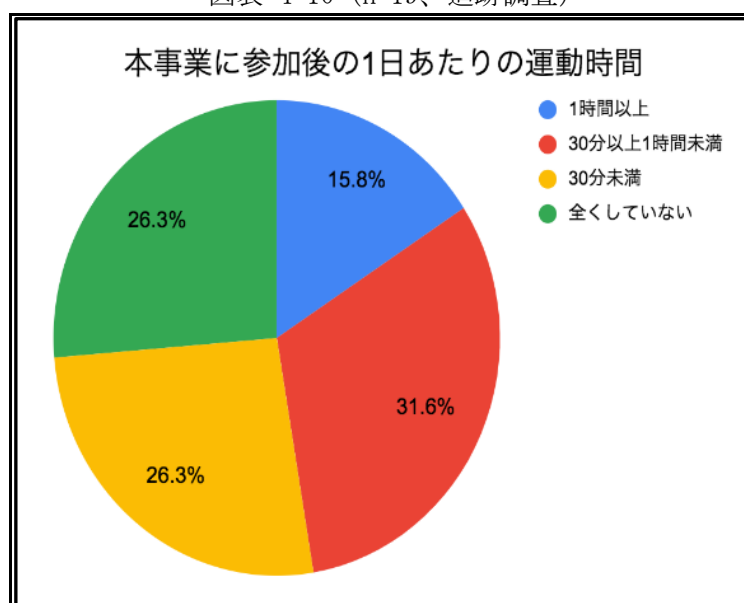
③1日あたりの運動時間の増加

スポーツの実施頻度に関する設問において、「1 日 30 分以上スポーツを実施している」児童（1 時間以上を合算）の割合は 13. 6%（事前）から 47. 4%へ（追跡）と増加しており、1 日あたりの運動時間の増加が見られた。

図表 4-9（n=20、事前調査）



図表 4-10（n=19、追跡調査）

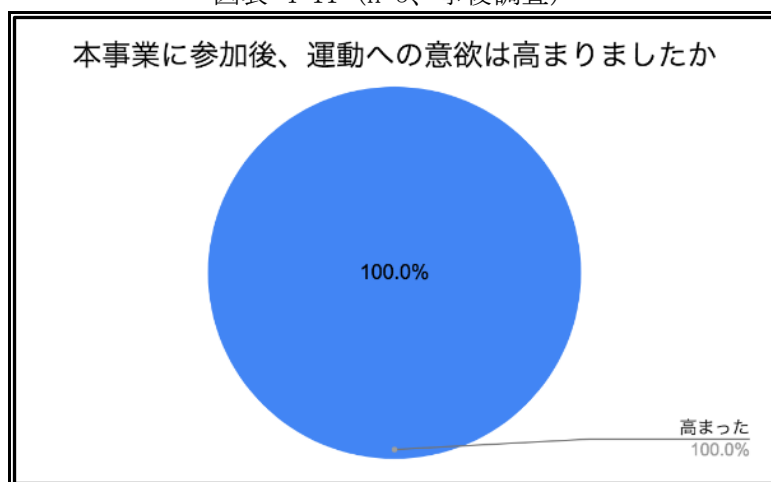


【子育て中の30代～40代の女性への実施効果】

①スポーツの実施意欲の改善効果

スポーツの実施意欲に関する設問において、「本事業参加後に運動への意欲が高まった」という割合は100%となっており、スポーツ実施意欲の改善が見られた。

図表 4-11 (n=5、事後調査)

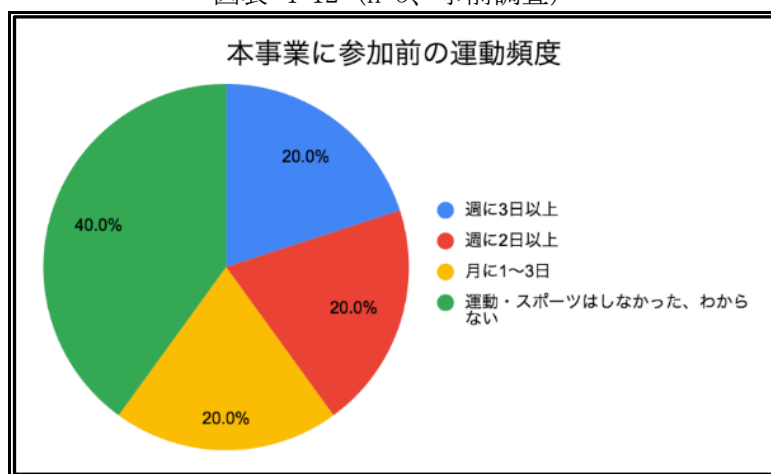


②スポーツ実施習慣の定着効果

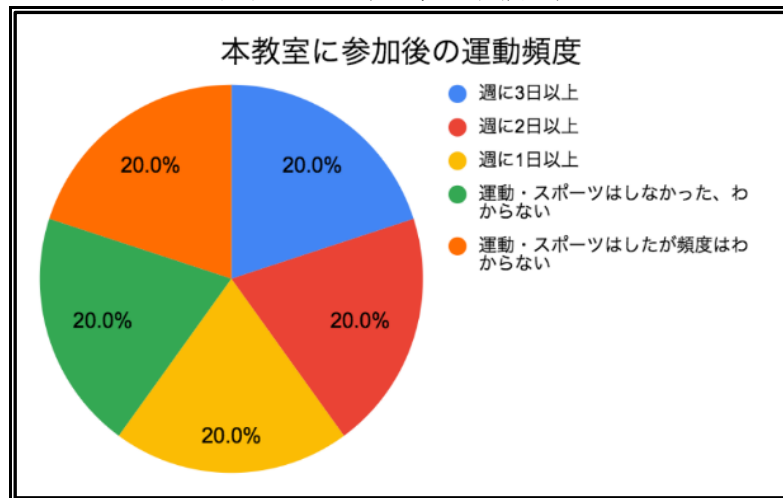
スポーツの実施頻度に関する設問において、「週1日以上スポーツを実施している母親の割合（週1日、2日、3日以上の合算）」は40%（事前）から60%へ（追跡）と増加しており、スポーツ実施習慣の定着が一定程度見られた。

また、スポーツの実施頻度に関する設問について、「今後の運動頻度は増える」と回答した割合が80%であり、「減る」と回答した割合は20%であった。

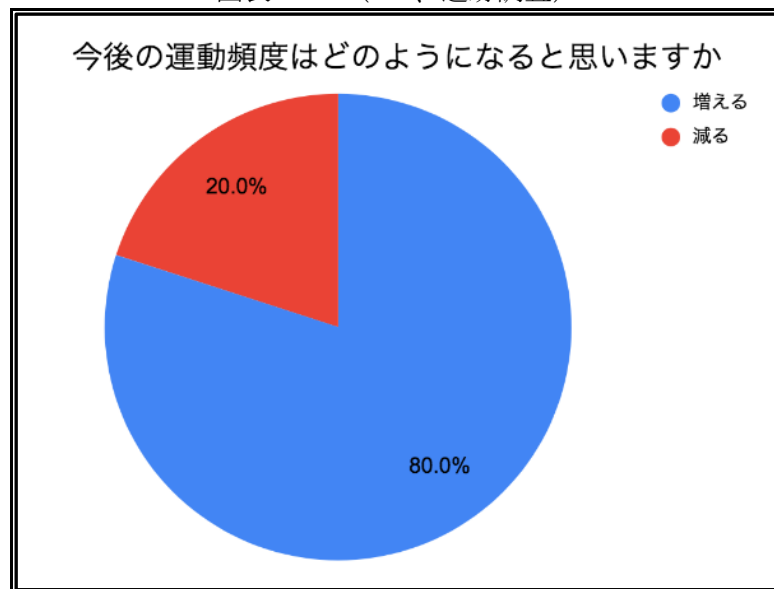
図表 4-12 (n=5、事前調査)



図表 4-13 (n=5、追跡調査)



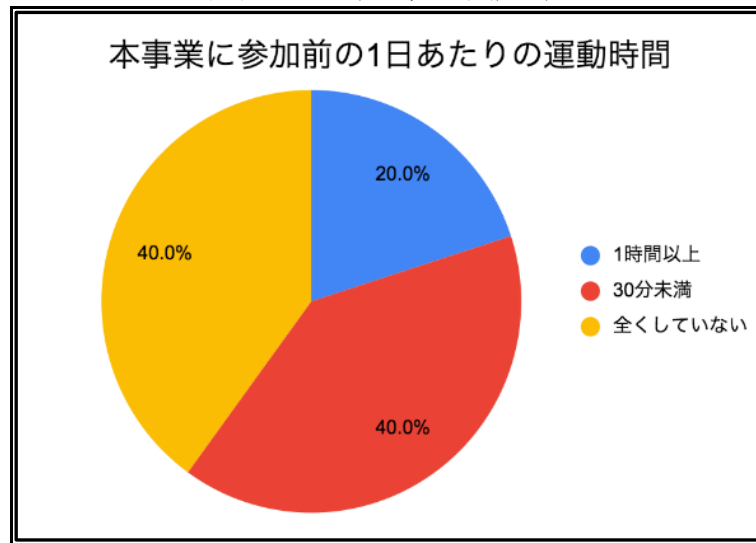
図表 4-14 (n=5、追跡調査)



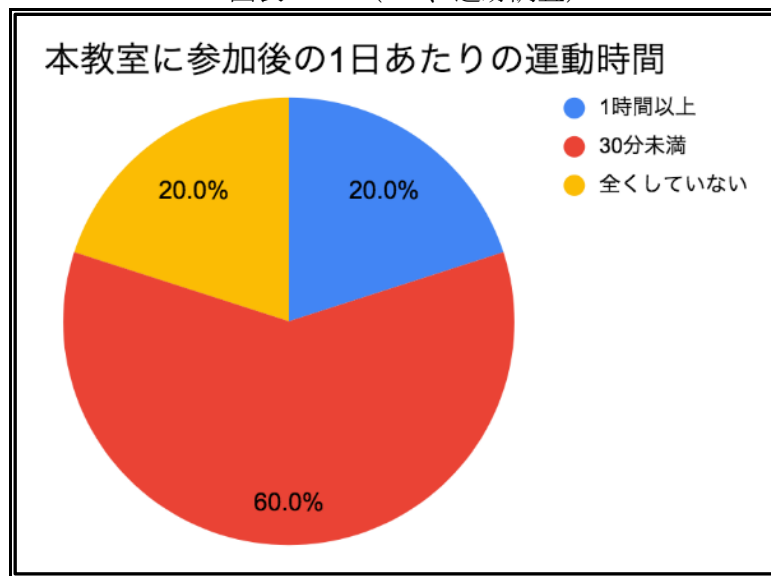
③1日あたりの運動時間

スポーツの実施頻度に関する設問において。「1日1時間以上スポーツを実施している」母親の割合は教室参加前後で20%と変化がなく、「1日30分未満スポーツを実施している」母親の割合は40%（事前）から60%（追跡）へと増加、「運動を全くしていない」母親の割合は40%（事前）から20%（追跡）へと減少しており、1日あたりの運動時間の増加が一定程度見られた。

図表 4-15 (n=5、追跡調査)



図表 4-17 (n=5、追跡調査)



5. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

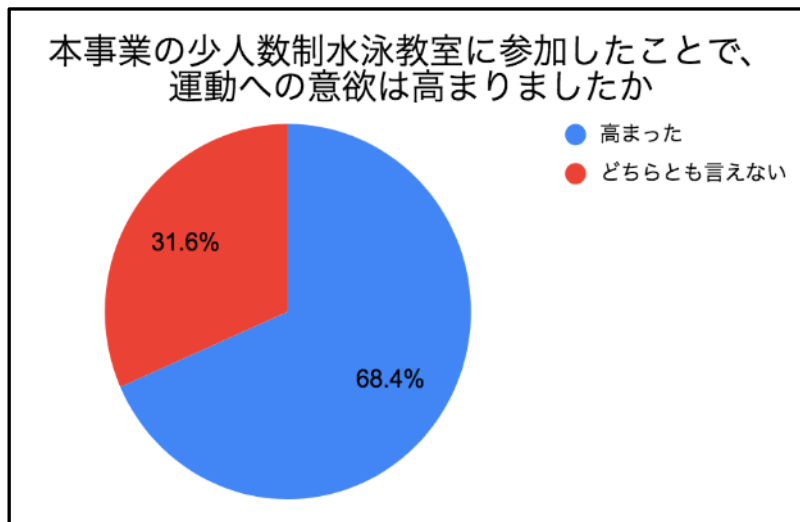
【発達障害児におけるスポーツ実施改善の要因の分析】

① 少人数制で個々に合わせたスポーツ指導が「促進要因」に

発達障害児のスポーツ実施について検証、分析を実施した。

全水泳教室参加後（追跡調査）のアンケート調査で「本事業の少人数制水泳教室に参加したことで、運動への意欲が高まった」という割合は 68.4%、どちらとも言えないという割合は 31.6%であった。

図表 5-1（n=19、追跡調査）



この結果から、発達障害児は少人数制で個々に合わせたスポーツ指導を受けることで、スポーツ実施意欲は改善することが示唆された。

しかし反対に、発達障害児は本事業のようなスポーツ指導を受ける環境が自宅近くに少ないことが、スポーツ実施の阻害要因になっていることも以下の通り示唆された。

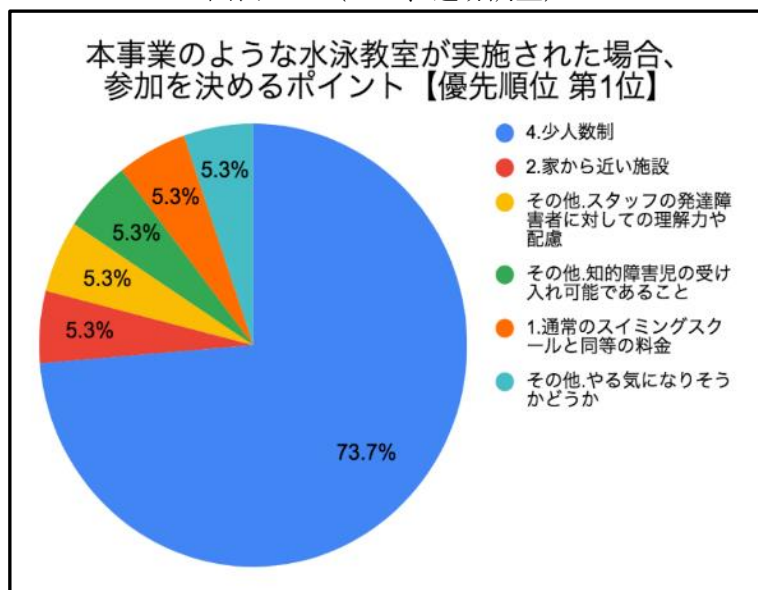
② 発達障害児が通える少人数制の水泳教室が自宅近くに存在しないことが「阻害要因」に

全水泳教室終了後（追跡調査）のアンケート調査で、「本事業のような水泳教室が実施された場合、参加を決めるポイント（優先順位第1位）」として一番割合が高かったものは「少人数制」で 73.7%であった。また、「参加を決めるポイント（優先順位第2位）」として一番割合が高かったものは「家から近い施設」で 52.6%、「参加を決めるポイント（優先順位第3位）」として一番割合が高かったものは「通常のスイミングスクールと同等の料金」で 36.8%あった。

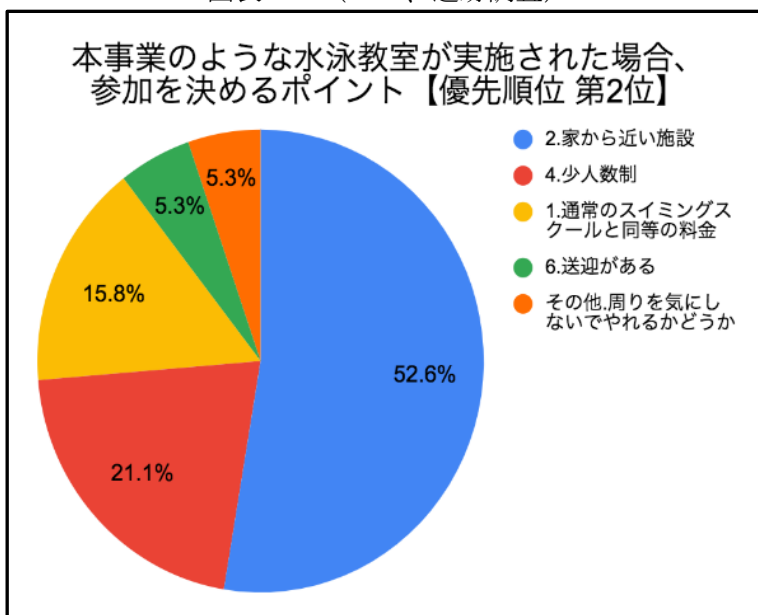
Q. 本事業のような水泳教室が実施された場合、参加を決めるポイント

1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
2. 家から近い施設
3. 暖かい季節（7月～9月など）
4. 少人数制
5. 親も一緒に参加できる
6. 送迎がある

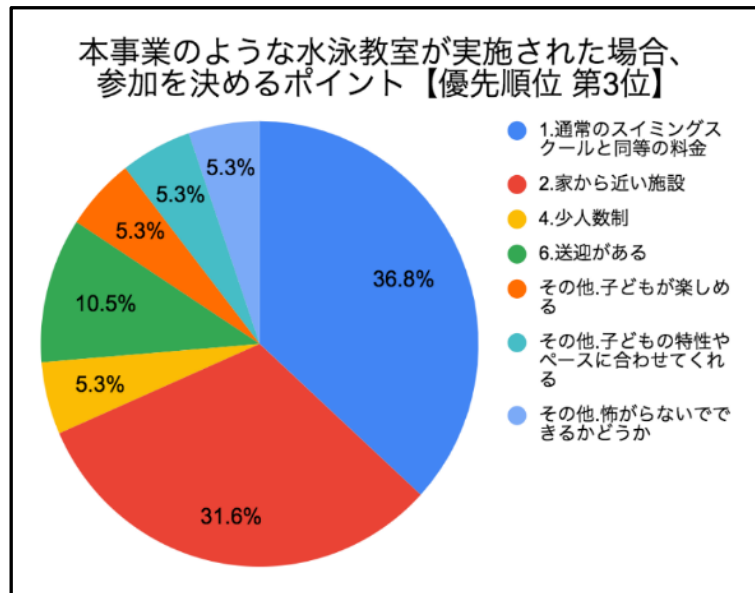
図表 5-1 (n=19、追跡調査)



図表 5-2 (n=19、追跡調査)

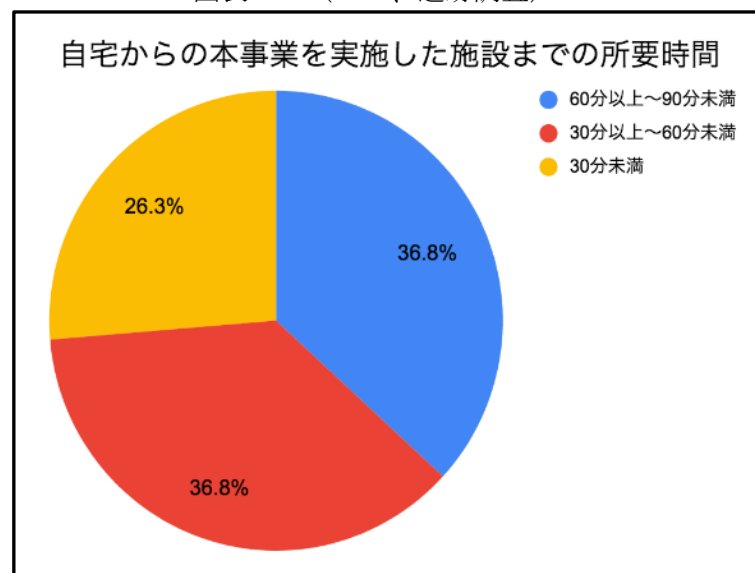


図表 5-3 (n=19、追跡調査)

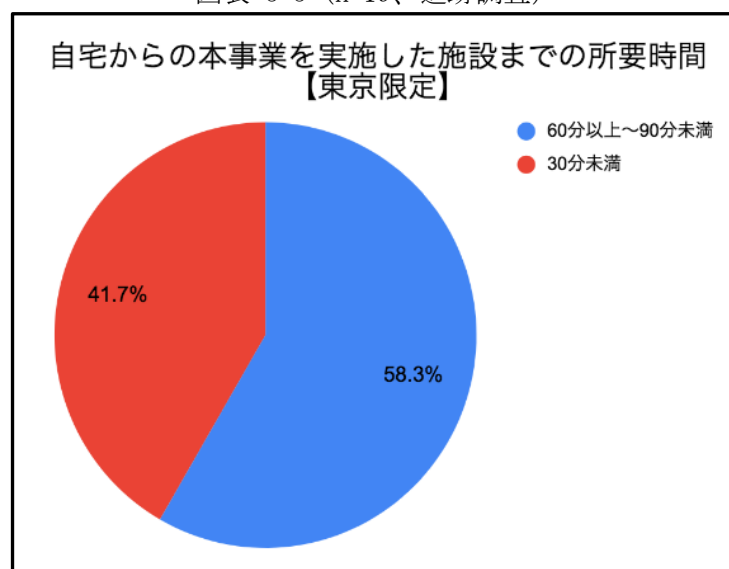


また、全水泳教室終了後（追跡調査）のアンケート調査で、自宅からの本事業を実施した施設までの所要時間として一番割合が多かったものは「60 分以上～90 分未満」と「30 分以上～60 分未満」で 36.8%であった。また、東京に限定すると、一番割合が多かったものは「60 分以上～90 分未満」で 58.3%であった。

図表 5-4 (n=19、追跡調査)



図表 5-5 (n=19、追跡調査)



この結果から、本事業で実施したような発達障害児が通える少人数制の水泳教室（スイミングスクール）は、自宅近くには存在しないことが推測できる。すなわち、市や区などの単位で発達障害児を対象とした少人数制の水泳教室は開催されていないと言える。実際、本事業実施に当たってヒアリングを行ったスポーツ施設管理団体の意見に「一定のニーズがあることもわかっているものの、指導者できる人間がいないため、研修も行えない。行政から障害者スポーツへの取り組みの要望を受けることもあるが、身体障害者を対象とした車椅子バスケットボールの体験会などの実施に留まっており、継続させたり発展させたりすることが出来ない状況」であることも見られた。以上を総じて、発達障害児を対象としたスポーツ教室は、利用者側（障害のある当事者やその家族）だけでなく、その方々を取り巻く環境（行政やスポーツ施設管理団体など）からのニーズがあるにも関わらず、普及していない現状が明確に現れたといえるだろう。

★ 定性データによる分析

幼児や児童のような発育発達段階にある子供達の運動能力差、体力レベル差は大きいいため、運動指導を行う場合には、対象者の「個別性」に対する配慮が大変重要である。加えて、障害の程度や種類にも「個別性」が極めて高い事を考えると、とりわけ発達障害児に対する運動指導では、健常児以上に対象者個々に対する理解を深める必要がある。すなわち、本事業実施によって得られた問題点を明確にしたり、その解決策を見いだしたりするための要因を詳細に分析するためには、以上に示した定量データに加えて、定性データ（いわゆる個々の意見など）の分析が必要不可欠と考えた。

そこで、アンケート調査による定量データに加えて、自由記述、電話や対面でのインタビューによる参加児童の保護者の意見について、アンケート調査に対する回答の裏付けとなる事実や詳細な理由を以下の図表にまとめた。

図表 5-6（追跡調査）

本事業参加後の運動実施が増減する理由
うちの子の様な子を 受け入れてくれる場所が中々ない 。通常のスイミングが受け入れてくれたとしても手厚さは期待できないし障害に対しての知識があるかも分からない。
以前通常の水泳教室を体験したのがきっかけで水泳に恐怖心を持っていましたが、今回丁寧に関わっていただいたお陰で 水泳への恐怖心も無くなり本人の意欲も高まりました 。……。水泳だけでなく体操教室も一般の教室に通わせてしまったために嫌いになり通えなくなってしまったため体操教室など他の運動でも 特性を理解して対応して下さる教室があればもっと運動が好きになり日常的に運動を行える と思います。
今回の教室のように 発達障害者の子供達を受け入れてくれる施設があまりない 。一番大事なことは、障害者を受け入れてくれても 障害者達に対するスタッフの理解力や配慮が欠けていると、長く通うのは難しい と思う。 そして 60 分以上かけて高速道路でこの教室を通ったが、長距離により子供は疲れてしまうのは非常に残念な状況である 。
水泳に興味はあったものの、 このような水泳教室が今まで見つけられなく、初めての経験でしたが子供自信も回数を重ねるうちに自信もついてきたように感じ、本人も続けたいという意欲があるため、継続して続けさせてあげたいです 。 運動を全くしてこなかった為初めての水泳の経験で水泳が好きになったのですが、 このような水泳教室がなくなってしまったら運動をする機会がまたなくなってしまう と思いました。
運動が大好きですが、 子供の特性に合わせた水泳教室はありませんでした 。普通のスイミングスクールではついていけず、 本人の自己肯定感が下がってしまうので、行きたいといわれても入れませんでした 。親が教えるのは、集中できないので、難しかったです。 今回の開催場所のプールは車で 1 時間以上かかりますが、たいへん貴重な機会なので、参加させていただきました 。
今までは体を動かしたいけど運動は嫌で親との運動は義務でやっていた。今回は他の子が頑張っている姿を見たのもあり本人も頑張れた。 健常児のように指導を受けて運動をすることができず友達同士で運動をする機会がない （学校外で大人がいないと遊びができない。）。 今回のように自分が楽しんで運動をする機会はなく、今までの通りになるので運動の機会は減る と思う。

図表 5-7（追跡調査）

自由記述欄より抜粋
ぜひ、今後も継続してほしいです。子供の表情がとても満たされていて、見ていて本当に親も満たされました。どうしても 障害の性質から、集団に入れなかったり、叱責されることが多い中自己肯定感が低くなってしまいます 。しかし、このスクールに通い出来ることが多くなり自信もついた様子です。先生方に感謝の一言です。これで終了となると、親子共にさみしいです。是非スクールとして成立させていただきたいです。
年間通じて開催してほしい 。出来れば受給者証が使えれば良いが、一般的な教室と同じような料金なら通わせたい
自費でも良いので 発達障害児が通える少人数制の水泳教室を是非増やしてほしい

参加したレッスンがとても楽しかったようで、年間を通じて開催してもらえたら嬉しいです。
一般的なスクールではついていけないばかりでなく、安全に通うことも難しく本人は自信を喪失し運動嫌いとなってしまうため参加できずにいました。そのためずっと特性を理解して対応して下さる水泳教室を探しておりました。今回通わせていただき嫌いだったはずの水泳が好きになり自信になり継続を希望するほどになりました。今後もこのようなスクールを年間を遠し継続していただきたいと強く望みます。 できれば通いやすい場所での開催を望みますが、片道1時間かけてでも通いたいと思うほど私たち親子には貴重な教室でした。
発達障害の子供も定型的な子供達と同様でスポーツが好きで、スポーツを通して心身の成長も期待できると思う。しかし、今、日本の現状は、残念ながらスポーツは最初からできる子供、レッスンの受け入れが早い子供、いわゆる定型的な子供達のために存在するシステムになっている。 発達障害の子供達も上手に泳ぎたい、走りたい、ボールを投げたいなどスポーツに対する熱心な気持ちは誰よりも高い。しかし、それを支えてくれる施設は日本の中では、他の先進国に比べて極めて少ない。 また、発達障害の子供達もスポーツを楽しむ権利があり、国はそれをサポートする義務もあると思う。 定型的な子供達と同じく、発達障害の子供達が楽しめるスポーツ場を設けてくれることこそ、日本も障害者に対する差別がなくなる国であると思う。
子供に病気があったため運動を全くしてこなかったのですが、主治医から水泳は勧められていたためこのような水泳教室を探していました。子供自信も経験のない水泳でしたが、興味があり本人も習ってみたいという意欲がありました。体験教室ということで、初めは不安もありましたが、一回目のレッスン後には楽しかった、またやりたいと本人の希望もあって、全て参加させていただきました。子供の様子を見させていただいていましたが、先生の話をしっかり聞き、集中してレッスンをうける姿、一人ではなく、お友達と一緒に頑張ってる姿をみて、私自身本当にありがたい経験をさせてもらってるなという感謝の気持ちとともに、子供達の楽しそうにレッスンをうける姿を見て、本当に嬉しい気持ちでいっぱいになりました。このような体験をさせていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も特性がある子供達の為のこのような水泳教室の継続を本当に心から願っております。子供達皆とってものびのびと楽しそうにレッスンを受けてる姿をまた見続けていきたいです。 親として、できることがあれば、何でも協力させていただきながら、ぜひとも水泳教室継続願っております。どうぞ宜しくお願い致します。
近所のスイミングスクールのおためしには参加したことがありましたが、まったくついていけず、泳ぐことができないと思っていたのに、この教室に参加したらメキメキ上達して、とても本人が喜んでいました。でも、やはり普通のスイミングスクールに行けるわけではないので、今後も教室を継続していただけたら、本当にありがたいです。本人も、また行きたい！と意欲を見せています。ぜひお願いいたします。
もっと頻度が多いといいと思う
障害児を対象とする教室はあまりないので、是非継続していただきたいです。

うちの子供は経験が糧になるので、同じスポーツの経験を積ませたい。今は短期（年間で1週間のみ）もしくは単発（月1回位か隔週1回の3ヶ月のみ）のレッスンはあるけれど継続して通えるレッスンがなく、スポーツの導入だけで終わってます。練習すれば技術が向上して楽しめるのに、ひとりもしくは親の指導では楽しめないで練習しません。長く運動を継続すれば挫折することもあります。技術の向上も挫折も運動を継続すればこそ体験できることです。「継続は力になること」を学習させたい。今後是非継続お願いします。

親の夢は「アクアスロンにチャレンジ」です。

あと、今回の母親教室のように父親も参加したいと訴えてました。

色々な地域で、各スポーツ施設でこのような教室が開かれる事が望ましいのですが。まずは大阪でも継続的に開催してほしい。

【子育て中の30代～40代の女性におけるスポーツ実施改善の要因の分析】

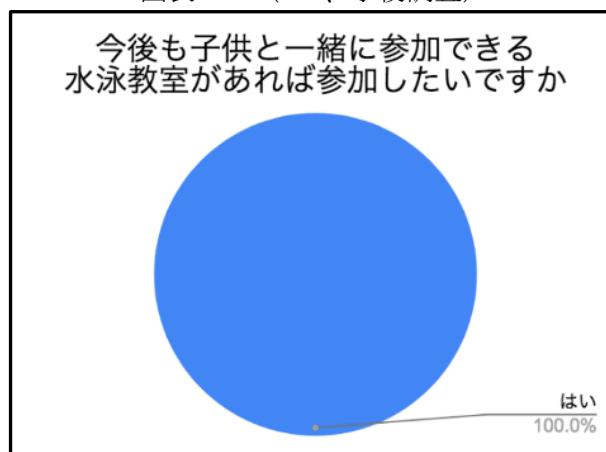
① 子供と一緒にスポーツを実施できる環境が「促進要因」に

子育て中の30代～40代の女性のスポーツ実施について検証、分析を実施した。

水泳事業参加後（事後）のアンケート調査で「今後も子供と一緒に参加できる水泳教室があれば参加したい」という割合は100%であった。

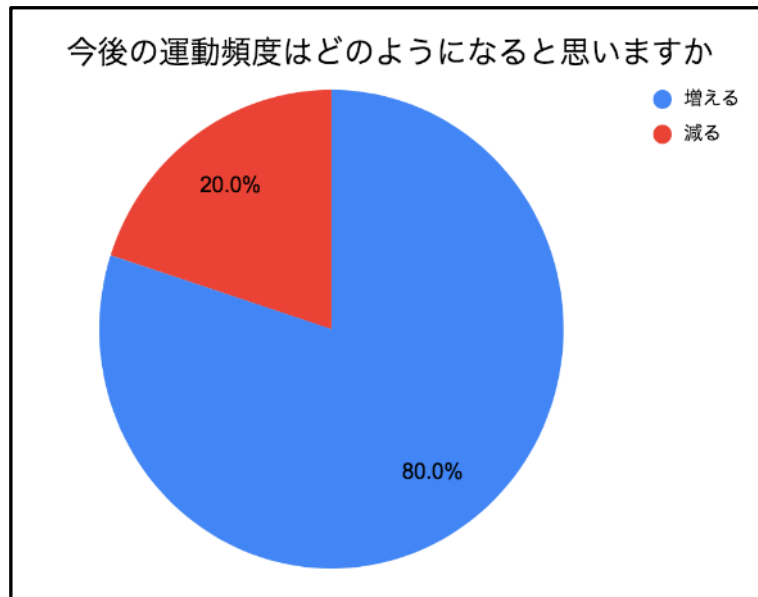
この結果から、母親は子供と一緒にスポーツ教室に参加することで、スポーツ実施意欲は改善することが示唆された。

図表 5-8 (n=5、事後調査)



また、全水泳教室参加後（追跡調査）のアンケート調査で「今後の運動頻度は増えると思う」という割合は80%であった。

図表 5-8 (n=5、追跡調査)



その理由としては「子供がプールを好きになったので行こうと思っているので。」「体を動かすことが気分転換になった。子供と一緒に散歩をする機会を増やした。コロナがおさまったら他のスポーツもしたい。」などがあり、子供と一緒にスポーツを行う意欲や頻度が高まっていることが示唆された。反対に、運動頻度が増えないと思うという理由として「土日は子供の療育などの教室は距離があり送迎が必要で、教室で待機していないといけないので、時間がありません。下に小さい子がいるので、平日の夜に家を空けることもできませんし、今回のように一緒にの時間に何かできるというのは本当にありがたいです。」などがあった。

② 子供のスポーツ活動を見学できる機会が少ないことが「阻害要因」に

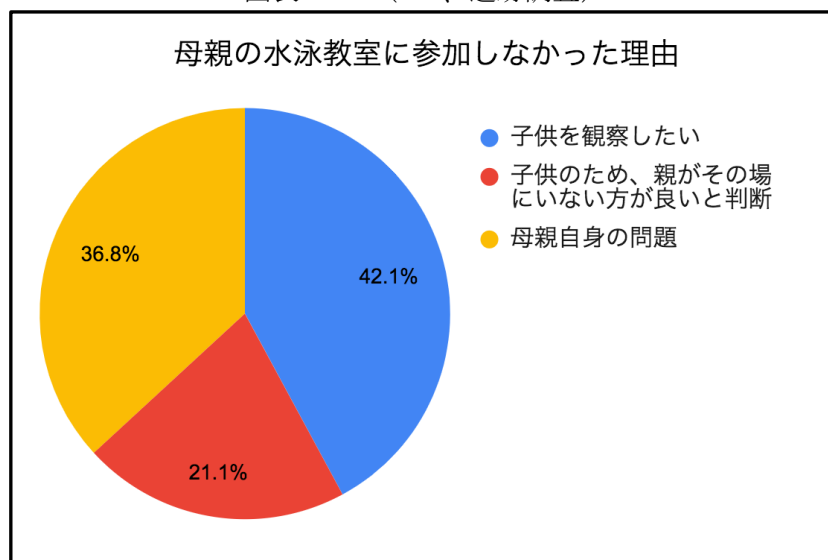
また、子供と同じ時間帯に実施した水泳教室に参加しなかった理由に対してアンケート調査（自由記述）を行い、以下の図表の通りカテゴリー分けをした。なお、1 アンケートに複数のカテゴリーに属する回答があるものについては、それぞれ独立させてカテゴリー分けをしている。

図表 5-9 母親の水泳教室に参加しなかった理由 (n=5、追跡調査)

カテゴリ	語られた内容
子供を観察したい 42.1% (8/19)	・子供が母親以外の大人との関わり方が見たかったから ・子供の様子を見たいから ・レッスンの様子をみて、子供と楽しかったこと、出来たことを共感したかったため ・子供の様子を見たかったから ・子供の様子をしっかり見たいから。 ・子供のレッスンの姿を見させていただきたかったので母親クラスには参加はしませんでした。 ・子供のレッスンの様子をしっかり見たいから ・あまりない機会なので自分が参加するより子供の様子をよく見たいとは思っていました。

子供のため、親がその場にいる方が良いと判断 21% (4/19)	・参加しない方が本人も一人で頑張ったような気がします。 ・親がいると甘えたり、集中が持続しないため。 ・子供が待つ事が難しいため親が着替えをしている間にどこかに行ってしまう危険などを考え見合わせました。 ・一緒に入ると、子供が私に向いてしまい、先生からのレッスンをしっかり受けられないため
母親自身の問題 36.8 (7/19)	「水着への抵抗」 ・水着になるのに抵抗がある ・水着に抵抗があるので。 ・水着に対抗あり。 「水着なし」 ・手持ちの水着がなかったから。 「体調」 ・ギックリ腰で外出できなかったため。体調がよければ参加予定でした ・今回母親クラスに参加できなかったのは体調が理由でした 「体力」 ・往復２時間以上の車での送迎でしたので自分の体力を考え運転に危険がないように今回は参加しませんでした。

図表 5-10 (n=5、追跡調査)



母親の水泳教室に参加しない一番多い理由（カテゴリ）は「子供を観察したい」で42.1%であり、発達障害児と母親が一緒に行えるスポーツ教室への参加に一定の影響を与えていることが示唆された。

また、「発達障害児におけるスポーツ実施改善の要因の分析」にて「発達障害児が通える少人数制の水泳教室（スイミングスクール）が自宅近くにないことが、発達障害児のスポーツ実施頻度に一定の影響を与えている」ことが示唆されたことから、母親が子供のス

ポーツ活動を見る機会も限定的であるということが推測できる。

つまり、発達障害児が通える少人数制の水泳教室（スイミングスクール）を継続的に開催されれば、母親の水泳教室への参加時間、参加頻度が増えると推測できる。

6. 本事業から得られた波及効果

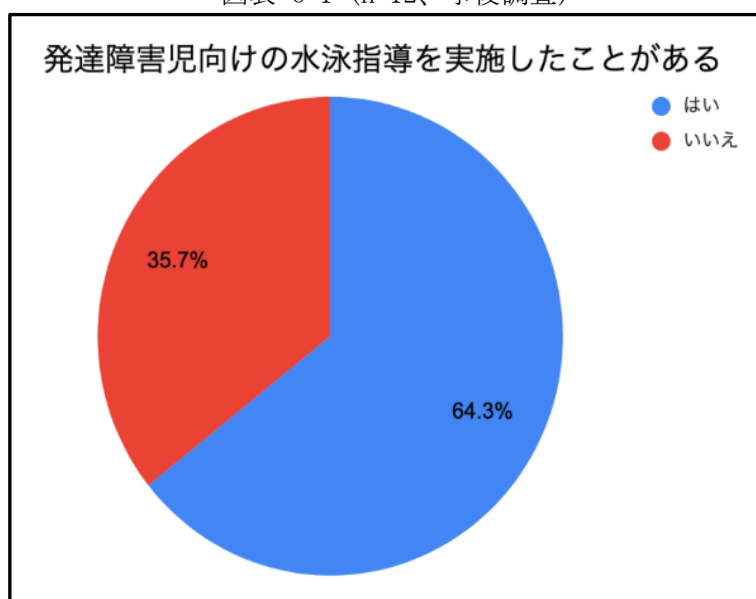
【指導者研修に関するアンケート分析】

発達障害児向けの水泳指導に関する研修終了後、アンケート調査を実施した。

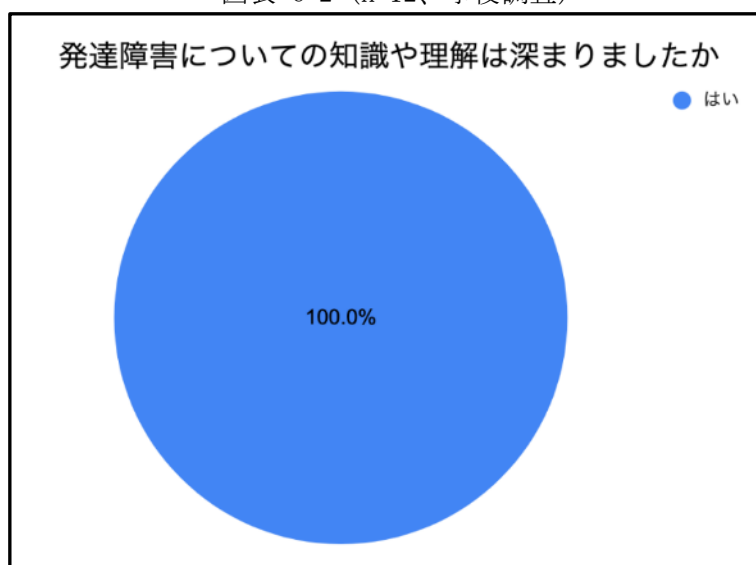
「発達障害児向けの水泳指導を実施したことがある」という割合は 64.3%であった。また指導者研修に参加して「発達障害についての知識や理解は深まった」という割合は 100%であり、「発達障害児向けの水泳教室があれば指導や補助をしてみたい」という割合は 92.9%であった。

この結果から、指導者研修に参加することで、参加者が水泳指導に携わりたいという意欲が高まることが示唆された。

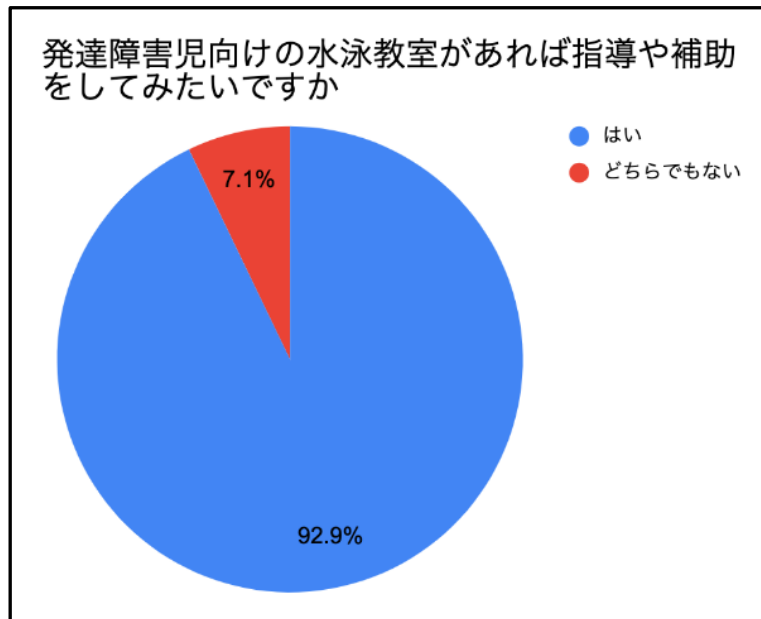
図表 6-1 (n=12、事後調査)



図表 6-2 (n=12、事後調査)



図表 6-3 (n=12、事後調査)



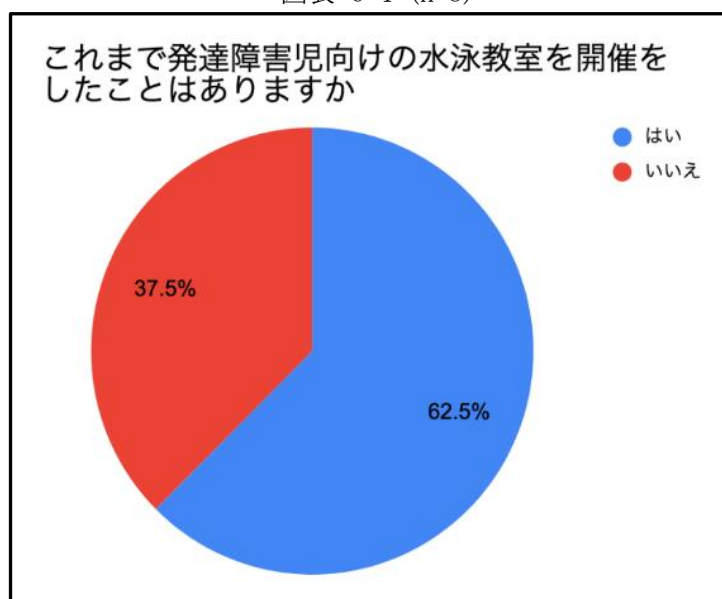
また、「発達障害児向けの水泳指導を実施したことがある」（図表 6-1）と回答した者へ、「発達障害児に水泳指導を実施する際、難しいと感じることは何か」というアンケート調査（自由記述）を行ったところ、「障害特性や個々の目標に応じて指導内容を確認しておかないといけないが、その時の雰囲気、状態に応じて臨機応変に対応しないといけない点」、「グループで指導する際、色んな音（水之音、別のグループの声など）、目につく物など、気になる事がたくさんある時の、指導者への目の向けさせ方が難しく思います」、「子どもたちの興味や気分はその日ごとに变化するため、泳法指導ができない日があります」などの回答が得られ、指導者も集団指導に難しさを感じていることが示唆された。

【発達障害児向け水泳教室に関するスポーツ施設へのアンケート分析】

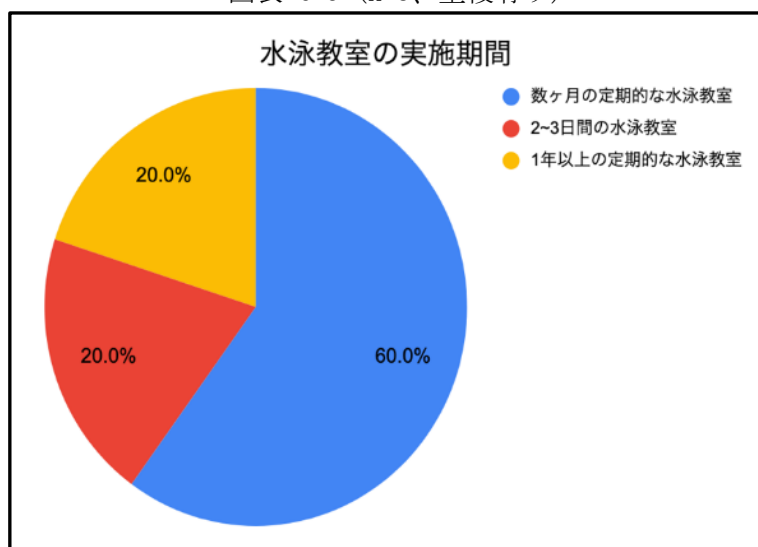
全国にある 99 箇所の公共スポーツ施設に対して、発達障害児向け水泳教室に関するアンケート調査をメールで実施した。回答は 8 施設から得られた。

「これまで発達障害児向けの水泳教室を開催したことがある」という割合は 62.5%であった。「水泳教室の実施期間」で 1 番割合が高かったのは「数ヶ月の定期的な水泳教室」で 60%であり、発達障害児向けの水泳教室が実施されたとしても、その期間は数ヶ月程度であり期間限定となっている場合が多いことが示唆された。

図表 6-4 (n=8)



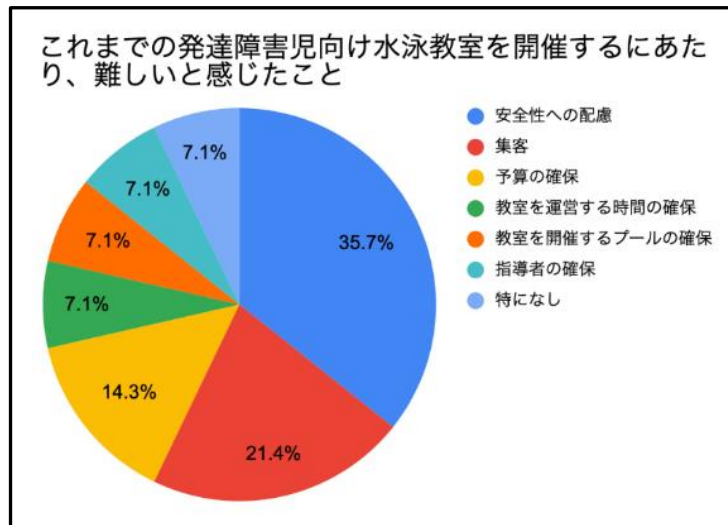
図表 6-5 (n=8、重複有り)



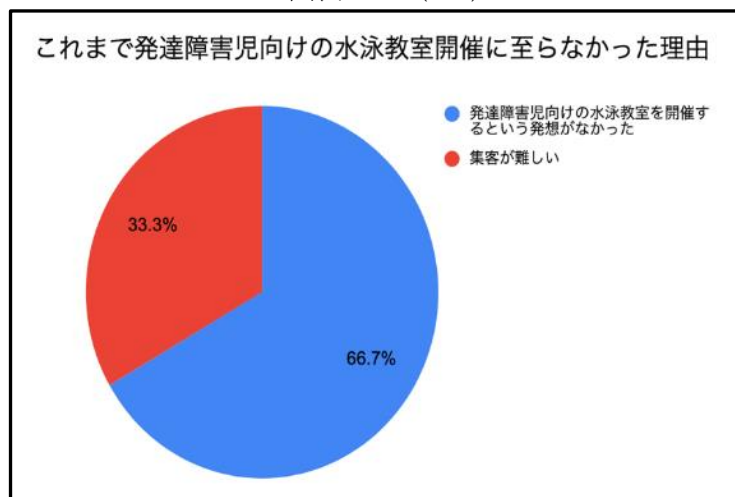
また、「これまでの発達障害児向け水泳教室を開催するにあたり、難しいと思ったこと」で1番割合が高かったのは「安全性」で35.7%、次に「集客」で21.4%であった。

「これまで発達障害児向けの水泳教室開催に至らなかった理由」で1番割合が高かったのは「発想がなかった」で66.7%であった。

図表 6-6 (n=8、重複有り)

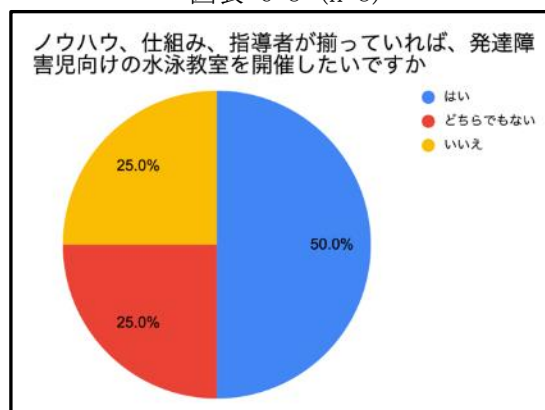


図表 6-7 (n=8)



また、「ノウハウ、仕組み、指導者が揃っていれば、発達障害児向けの水泳教室を開催したい」という割合は 50%であった。

図表 6-8 (n=8)



7. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

【事業継続や横展開に向けたポイント】

① 継続的な開催が参加者の増員に寄与

本事業と同様の教室を行っている事業者が少ないこともあり、継続実施することで参加者が徐々に増えていくと予想される。通常冬場になると水泳実施者は減る傾向にあるのだが、本事業は冬場になっても参加申込は増えていった。但し、新型コロナウイルスの感染拡大や、緊急事態宣言の発令の影響で、実際の参加者は2020年10月から2021年1月にかけて横ばいだった。

② 母親も同じ時間帯に参加できる教室を用意

子供と母親の教室を同じ時間帯に開催することで、母親もスポーツをする時間を確保できる。アンケートにも「今回のように一緒に一緒にの時間に何かできるというのは本当にありがたいです。」というコメントがあった。

③ 指導者研修後に水泳教室を開催することで、指導者育成が効率的に行える

本事業のように、発達障害児向け水泳指導に関する研修を行った直後に、水泳教室の見学・サポート・補助をすることで、指導者育成を効率的に行うことができた。

【事業継続や横展開に向けた課題】

① 自宅～施設の移動時間が長い

栗山公園健康運動センター（小金井市）での教室に参加した12人中7名（58%）が、移動時間に60分から90分を有していた。実際来る途中に車酔いをして遅れて参加した生徒もいた。長時間の移動は、本人のスポーツ実施意欲を阻害する可能性があり、仕事や育児、家事で時間の限られる保護者にとっても負担。

② 発達障害児への周知が困難

新型コロナウイルスの影響もあり、特別支援学校や特別支援学級、東京都特別支援学校PTA 連合会、放課後デイサービスに周知の協力をお願いしても、想定していた以上に理解が得られなかった。

③ 指導者の確保

本事業は東京と大阪で開催し、両地域とも当社のネットワークがあったので指導者の確保はできた。ただ、発達障害児に水泳指導を行った経験のある指導者が少ないため、同様の事業を他の自治体で行う場合は指導者の確保が難しいと思われる。

④ 運営資金の確保

発達障害児に水泳指導を行う場合、安全面を考慮し1人の先生に対して子供3人を予定していたが、それでも指導が難しい生徒が多数いたため、インストラクターを予定より増員させることが必要だった。

運営資金とインストラクターの謝金を、参加者からの参加費で賄うのは現実的ではないので、地方企業等から出資を募る、自治体から運営費を負担してもらうなどの対策が必要。ただ、活動内容の認知度が上がるまでは、企業からの出資はハードルが高いと考える。

（２）次年度以降の事業継続、横展開の計画

①小金井市での事業継続について

株式会社東京アスレティッククラブと東京学芸大学から、来年度も小金井市で事業を継続したいという話が進んでいる。施設は無償で借りられる可能性はあるが、運営費用やインストラクター謝金等は生徒達の参加費で賄いきれないため、企業や自治体、クラウドファンディングなどで資金を集める必要がある。

②全国の自治体への発信

本事業のような取り組みを全国の自治体と協業できるよう PR する。

（３）今後の事業展開に向けて期待される sport in Life プロジェクトにおける取組

- ①今後の事業展開に関してディスカッションする場を設置
- ②参画団体同士の連携促進
- ③スポーツ実施に関する補助金や助成金の紹介
- ④情報発信サポート

8. 終わりに

本事業により、発達障害児はスポーツを実施したいにも関わらず、スポーツ実施を実施できる環境が不足していることが示唆された。ただ、その環境を創出するためには、指導者の育成や確保、資金調達などが課題となっている。

また、発達障害児の保護者に、本事業の情報を伝達する手段が少ないことに苦勞した。①特別支援学校や東京都特別支学校や②特別支援学級（東京 26 校、関西 20 校）、③PTA 連合会、④放課後デイサービス（44 箇所）に周知の協力をお願いしても、想定していた以上に理解が得られなかった。そこで、WEB（Google と Yahoo!）でリスティング広告を出稿したところ、子供に限ると 14 名から問い合わせがあり、10 名の参加者を確保できた。上記①～④による問い合わせは 0 名であった。

このような経験から、障害児の保護者に対して直接情報を伝達できる手段（メディアと発信者）が増えれば、障害児のスポーツ実施率は増えるのではないかと推測できる。

参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細

【水泳教室 事後アンケート（子供）】

Q1.性別	Q2.学年	Q3.現在、スポーツの習い事をしていますか。	Q4.この事業に参加する前、運動・スポーツ(学校体育以外)を1日にどのくらい実施していましたか。	Q5.この事業に参加する前、直近一年の運動頻度を教えてください。	Q6.（Q5で運動・スポーツをしなかった、わからないと回答した方のみ回答）運動・スポーツをしなかったあるいはできなかった理由を教えてください。	Q7.（Q5で実施していると回答された方のみ回答）運動・スポーツをどこで実施していましたか。
男性	小学2年生	はい	30分以上1時間未満	週に3日以上		運動療育のデイサービス
男性	その他	はい	1時間以上	週に2日以上		習い事
男性	小学1年生	はい	1時間以上	週に2日以上		習い事
男性	小学1年生	いいえ	30分未満	週に2日以上	場所や施設がないから	放課後等デイサービス
男性	小学1年生	はい	30分未満	週に2日以上		習い事
男性	小学2年生	はい	30分未満	週に2日以上		習い事
男性	小学3年生	はい	30分未満	週に2日以上		習い事
男性	小学4年生	はい	30分未満	週に2日以上		部活動（クラブ活動）
男性	小学2年生	いいえ	全くしていない	週に2日以上		休日に公園で遊ぶ
男性	小学1年生	いいえ	30分未満	週に1日以上		習い事、放課後デイサービス
男性	小学2年生	いいえ	30分未満	週に1日以上		放課後デイ
男性	小学2年生	はい	全くしていない	週に1日以上		習い事
男性	小学4年生	はい	全くしていない	月に1～3日		習い事
男性	小学4年生	いいえ	全くしていない	月に1～3日	運動・スポーツが嫌いだから	
男性	その他	いいえ	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	場所や施設がないから、仲間がいないから	
男性	小学1年生	いいえ	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	仲間がいないから	
男性	小学2年生	いいえ	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	場所や施設がないから	
男性	小学3年生	いいえ	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	場所や施設がないから	
男性	小学4年生	いいえ	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	特に理由はない	
男性	小学4年生	いいえ	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	運動・スポーツが嫌いだから	
男性	小学5年生	いいえ	30分未満	運動・スポーツはしたが頻度はわからない	運動・スポーツが嫌いだから、場所や施設がないから、仲間がいないから	両親と登山。児童デイでちょっとサッカーをしてみよう。
男性	小学2年生	いいえ	全くしていない	運動・スポーツはしたが頻度はわからない	仲間がいないから	

Q8.この事業に参加する前、水泳を習ったことはありますか。	Q9. (Q8でいいえと答えた方のみ回答) 水泳を始められなかった理由を教えてください。	Q10.この事業に参加した後、運動やスポーツをするのが好きになりましたか。	Q11.この事業に参加した後、運動やスポーツに自信ができましたか。	Q12.この事業に参加した後、水泳をすることが好きになりましたか。	Q13.この事業に参加した後、水泳に自信ができましたか。	Q14.居住区のスポーツ施設やスイミングスクールにこのような少人数制水泳教室があれば参加したいですか。
経験がある		はい	はい	はい	はい	はい
経験がない	水泳教室に入会を断られた	はい	はい	はい	はい	はい
経験がない	時期尚早と思った	はい	はい	どちらでもない	はい	はい
経験がない	水泳教室に入会を断られた	どちらでもない	はい	はい	はい	はい
経験がない	学ぶ場所があることを知らなかった	はい	どちらでもない	はい	どちらでもない	はい
経験がある		はい	はい	はい	はい	はい
経験がない	学ぶ場所があることを知らなかった	はい	はい	はい	はい	はい
経験がない	水に対して恐怖心がある	はい	はい	はい	はい	はい
経験がない	体験教室に入ったが、ついていくのは厳しいと感じたため。	はい	はい	はい	はい	はい
経験がある	Q8の回答は、はい、です。	はい	はい	はい	はい	はい
経験がない	水に対して恐怖心がある	はい	はい	どちらでもない	どちらでもない	はい
経験がない	学ぶ場所があることを知らなかった	どちらでもない	どちらでもない	どちらでもない	どちらでもない	はい
経験がある		はい	はい	はい	はい	はい
経験がある		どちらでもない	どちらでもない	はい	はい	はい
経験がない	集団での水泳教室では安全の確保が困難と予想されたため	はい	どちらでもない	はい	どちらでもない	はい
経験がある	水泳教室に入会を断られた	はい	どちらでもない	はい	どちらでもない	はい
経験がある		どちらでもない	どちらでもない	どちらでもない	どちらでもない	はい
経験がない	水泳教室に入会を断られた	はい	どちらでもない	はい	どちらでもない	はい
経験がない	病気があり運動をしてこなかった為	はい	はい	はい	はい	はい
経験がない	人が多いのが苦手	はい	はい	はい	はい	はい
経験がある	水泳教室に入会を断られた。成長とともに健全児と一緒に習うことができなかった	どちらでもない	どちらでもない	どちらでもない	どちらでもない	はい
経験がある		はい	はい	はい	どちらでもない	はい

Q15. 今回の水泳教室に参加したいと思った理由を詳しく教えてください。	Q16. 教室に参加してどのようなことがよかったですか。
スイミングスクールに週に一回通っているが、この1年進級しておらず、周囲の生徒さんの中でも完全に浮いていて、やる気も出ず行き詰まりを感じていたのだ。	まず、終了後すぐに楽しかった！と言った事です。親から見ても出来た！という自信で満ちていて嬉しそうに見えました。普段のスイミングスクールでは感じた事の無い、僕は泳げる。という感覚と自信がついたようです。
一般の水泳教室では発達障害への理解が乏しく、受け入れる姿勢がないため、通えなかったのですが、今回は安心して楽しく参加できた。	障害者も人格があり、教室を通してそれを尊重して頂きましたこと。
水泳を習う、という経験をさせたかった	プールでは、遊ぶだけでなく、泳ぐ楽しさも学べたように思います。
色々なことを経験させたかった	手厚く本人のペースに合わせてくれる
近所の水泳スクールにはない、少人数制が良いと思いましたので。	水面に顔をつける事が難しかったのですが、恐怖心は充分和らいだような感じを受けました。
一般の水泳教室だと、コーチの指導が入らないことがあるので。	少人数であり、本人の言うことやレベルに合わせてもらえるので自信がつき、楽しめたようです。
泳ぐことが好きなので伸ばしてあげたいが通えるスクールが近くにはないので探していたところ、今回の水泳教室を見つけたので参加しました。	子供も楽しかったと言っており、少ない人数なので丁寧に教えていただけて良かったです。
プールが苦手な子でも参加できそうだったから。	顔をつけることができた。ビート板を使って泳ぐことができた。
このようなクラスはほかの水泳教室にはなかったのだ。	子どものペースに合わせてマンツーマン指導であったこと。泳げる力があることがわかって、本人も自信がついていた。
障害児対象、少人数でのレッスンであったから。	足を交互にバタバタすることができるようになりました。しっかりと指導していただけてありがとうございました。
障害児専門の教室がなく丁寧に教えてもらいたいと思いました	少人数で個々の特性を理解して指導してもらえるのが良かったです
発達障害の子が不安なく習える思ったのだ	こういう少人数で出来る水泳教室があるとわかったこと
少人数制であること、先生が障害に理解があること。	子どものいきいきした姿が見られたこと。次につながる様子が見られたこと。
一般の教室では先生の指示が理解しにくいようだったので。	丁寧にわかりやすく、集中を途切れさせずに参加できたようです。
水泳を経験させてあげたいと常々思っておりましたが、特性上通常のスイミングスクールに通うことは困難なため機会がなく、特性を理解して下さるこのような場を当に探してありましたので参加させていただきました。	「また行きたい」と意欲的になりました。
プールが好きだけど機会がないため	息子がイキイキしていたこと
発達障害児に特化した水泳教室なのでやらせてみたいと思った。	少人数できめ細かく教えてもらえたので安心して任せられた。
息子が水泳が好きなのに参加を断られたが、この団体は受け入れてくれるため。	子供が楽しんで参加できる。体力が発散されて、夜になると寝てくれる。
1回目の水泳体験が楽しく、また行きたいとのことで参加させていただきました。	お友達と一緒に指導してもらえて楽しかったようです。
楽しく泳ぎたかったから	先生が優しく指導して下さいましたこと
お母さんが勝手に申し込んだ	言いづらい。また、通い続けたい。
水泳が苦手だから	苦手意識がなくなった。

【水泳教室 事後アンケート（母親）】

Q1.年齢	Q2.この事業に参加する前、運動・スポーツ(学校体育以外)を1日にどのくらい実施していましたか。	Q3.この事業に参加する前、直近1年の運動頻度を教えてください。	Q4.（Q3で運動・スポーツをしなかった、わからないと回答した方のみ回答）運動・スポーツをしなかったあるいはできなかった理由を教えてください。	Q5（Q3で運動をしていると答えた方のみ回答）この1年に実施した運動・スポーツの実施種目を教えてください。	Q6.今後も子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）があれば参加したいと思いますか。	Q7.親子で参加ではなく女性のための水泳教室があれば参加したいですか。
40代	1時間以上	週に3日以上		自転車、サイクリング、水泳、登山、エアロビクス、ヨガ、バレエ、ピラティス、テニス	はい	どちらでもない
40代	30分未満	週に2日以上		水泳、体操	はい	どちらでもない
40代	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	仕事や家事が忙しいから、		はい	どちらでもない
40代	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	特に理由はない		はい	はい
40代	全くしていない	週に1日以上			はい	はい
40代	30分未満	月に1～3日		ランニング（ジョギング）	はい	どちらでもない
40代	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	仕事や家事が忙しいから、場所や施設がないから、仲間がいないから		はい	はい
40代	全くしていない	運動・スポーツはしなかった、わからない	仕事や家事が忙しいから、子どもに手がかかるから		はい	いいえ

Q8.子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）と子供と別々に行う水泳教室なら、どちらに参加したいですか。	Q9.教室に参加してどのようなことがよかったですか。	Q10.この事業に参加して、子供に水泳を教えるためのノウハウ、スキルは身につきましたか。	Q11.この事業に参加して、子供と一緒にプールにいきたいと思いましたか。
子供と別々に行う水泳教室	習いながら自分の泳ぎ方が変わっていることを体感できた。	どちらでもない	はい
子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）	久しぶりに泳いだので気分転換になりました。泳ぎ方のポイントを教えていただいたので良かったです。	どちらでもない	はい
子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）	久しぶりに運動して気持ちよかったです。子供の様子も近くで見れたので、成長を感じられてよかった。	いいえ	はい
子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）	運動する意欲がわいた	いいえ	はい
子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）	体を動かすことがとても気持ちよかったです。継続していきたいと思うようになった。	いいえ	はい
子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）	フォームを改善できた。	どちらでもない	はい
子供と一緒に参加する水泳教室（指導方法も学ぶことができる）	指導を受けてスポーツしたことがとても満足できた。	どちらでもない	はい
子供と別々に行う水泳教室	子どもがこの水泳教室に参加したおかげで、バタ足やクロールのように腕を回すことができるようになっていて、驚きました。泳ぐ力があることがわかって、よかったです。また、同じ時間帯で母親が参加できる教室は、子どもを預ける必要がないので、とてもありがたいです。久しぶりにこのような教室に参加できて、とても楽しかったです。	どちらでもない	はい

【水泳教室 追跡アンケート（子供）】

Q1. 参加された施設	Q3. 自宅からのプールまでの所要時間	Q4. 今回のような水泳教室が実施された場合、参加を決めるポイントをお教えてください。	Q5. 今回のような水泳教室が実施された場合、参加を決めるポイントをお教えてください。	Q6. 今回のような水泳教室が実施された場合、参加を決めるポイントをお教えてください。
栗山公園健康センター（東京）	30分以上～60分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
栗山公園健康センター（東京）	60分以上～90分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
栗山公園健康センター（東京）	30分以上～60分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
大阪YMCA（大阪）	30分以上～60分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
栗山公園健康センター（東京）	30分以上～60分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
大阪YMCA（大阪）	30分以上～60分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
栗山公園健康センター（東京）	60分以上～90分未満	2. 家から近い施設	4. 少人数制	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金
栗山公園健康センター（東京）	60分以上～90分未満	4. 少人数制	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金	2. 家から近い施設
栗山公園健康センター（東京）	30分未満	4. 少人数制	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金	2. 家から近い施設
大阪YMCA（大阪）	30分以上～60分未満	4. 少人数制	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金	2. 家から近い施設
栗山公園健康センター（東京）	60分以上～90分未満	スタッフの発達障害者に対する理解力や配慮	4. 少人数制	2. 家から近い施設
栗山公園健康センター（東京）	30分以上～60分未満	知的障害児の受け入れ可能であること	4. 少人数制	2. 家から近い施設
大阪YMCA（大阪）	30分未満	4. 少人数制	6. 迷道がある	2. 家から近い施設
大阪YMCA（大阪）	30分未満	4. 少人数制	4. 少人数制	4. 少人数制
大阪YMCA（大阪）	30分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	6. 迷道がある
栗山公園健康センター（東京）	60分以上～90分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	6. 迷道がある
大阪YMCA（大阪）	30分未満	1. 通常のスイミングスクールと同等の料金	2. 家から近い施設	子どもが楽しめる
栗山公園健康センター（東京）	60分以上～90分未満	4. 少人数制	2. 家から近い施設	子どもの特性やペースに合わせてくれる
栗山公園健康センター（東京）	60分以上～90分未満	やる気になりそうかどうか	周りを気にしないでやれるかどうか	怖がらないでできるかどうか

Q7. 今回のようなスポーツ教室が実施された場合、どのようなスポーツ教室に参加してみたいですか？	Q8. 今回のようなスポーツ教室が実施された場合、どのようなスポーツ教室に参加してみたいですか？	Q9. 今回のようなスポーツ教室が実施された場合、どのようなスポーツ教室に参加してみたいですか？	Q10. 今回のようなスポーツ教室が実施された場合、どのようなスポーツ教室に参加してみたいですか？	Q11. 本教室に参加後の、運動実施頻度（学校体育を除く）を教えてください。	Q12. 本教室に参加後の、1日あたりの運動実施時間（学校体育を除く）を教えてください。	Q13. 今回の水泳教室はひとまず終了しましたが、今後の運動の機会（実施頻度や時間）はどのように変わりますか？
2.水泳	9.サッカー（フットサル）	7.キャッチボール	高まった	週に1日以上	30分未満	増える
2.水泳	3.体操	7.キャッチボール	高まった	月に1～3日	全くしていない	増える
2.水泳	5.ヨガ	3.体操	高まった	運動・スポーツはしたが頻度はわからない	30分未満	増える
2.水泳	1.散歩（ウォーキング）	ラグビー	高まった	週に3日以上	30分以上1時間未満	変わらない
2.水泳	3.体操	9.サッカー（フットサル）	高まった	週に2日以上	30分以上1時間未満	変わらない
2.水泳	7.キャッチボール	4.縄跳び	どちらも言えない	月に1～3日	30分未満	変わらない
2.水泳	3.体操	8.ボウリング	高まった	運動・スポーツはしたが頻度はわからない	30分未満	減る
2.水泳	3.体操	9.サッカー（フットサル）	高まった	運動・スポーツはしなかった、わからない	30分未満	減る
2.水泳	9.サッカー（フットサル）	11.野球（ソフトボール）	高まった	3ヶ月に1～2日	全くしていない	減る
2.水泳	4.縄跳び	7.キャッチボール	どちらも言えない	週に1日以上	30分以上1時間未満	変わらない
2.水泳	9.サッカー（フットサル）	11.野球（ソフトボール）	高まった	運動・スポーツはしなかった、わからない	30分以上1時間未満	変わらない
2.水泳	9.サッカー（フットサル）	10.バスケットボール	高まった	週に1日以上	1時間以上	減る
2.水泳	3.体操	4.縄跳び	どちらも言えない	週に2日以上	1時間以上	減る
2.水泳	2.水泳	2.水泳	高まった	運動・スポーツはしたが頻度はわからない	全くしていない	変わらない
9.サッカー（フットサル）	7.キャッチボール	4.縄跳び	高まった	週に2日以上	1時間以上	変わらない
9.サッカー（フットサル）	2.水泳	3.体操	どちらも言えない	週に1日以上	全くしていない	変わらない
9.サッカー（フットサル）	2.水泳	10.バスケットボール	どちらも言えない	週に1日以上	30分以上1時間未満	変わらない
2.水泳	3.体操	9.サッカー（フットサル）	高まった	週に1日以上	全くしていない	減る
9.サッカー（フットサル）	10.バスケットボール	5.ヨガ	どちらも言えない	週に2日以上	30分以上1時間未満	変わらない

Q14.上記の理由を教えてください。	Q15.「母親クラス」に参加されなかった方へ。今回の水泳教室に参加されなかった理由を教えてください。
今回の参加で、スポーツ教室に親子とも興味を持った。不定期だが、地域の障害者対象のスポーツ教室をみつけたので参加する予定。	参加した
以前通常の水泳教室を体験したのがきっかけで水泳に恐怖心を持っていましたが、今回丁寧に関わっていただいたお陰で水泳への恐怖心も無くなり本人の意欲も高まりました。本人が継続を望んだため個人レッスンの水泳教室にて水泳を続けていくこととしました。水泳だけでなく体操教室も一般の教室に通わせてしまったために嫌いになり通えなくなってしまったため体操教室など他の運動でも特性を理解して対応してくださる教室があればもっと運動が好きになり日常的に運動を行えると思います。	往復2時間以上の車で送迎でしたので自分の体力を考え運転に危険がないように今回は参加しませんでした。また、まだ子どもが待つ事が難しいため親が着替えをしている間にどこかに行ってしまう危険などを考え見合わせました。
体を動かすことの楽しさや必要性を発見するきっかけになったと思うから。	子どもの様子をしっかり見たいから。
今まで通りの運動療育とスイミングスクールの利用を継続する為。このような教室があれば増やして通わせたい。	手持ちの水着がなかったから。
障害児向けの水泳教室を探しているがなかなか見つからないので。	参加した。
今回は一回だけの参加であり、頻度に変化はありません。	ギックリ腰で外出できなかったため。体調がよければ参加予定でしたが、あまりない機会なので自分が参加するより子供の様子をよく見たいとは思ってました。
うちの子の様な子を受け入れてくれる場所が中々ない。通常のスイミングが受け入れてくれたとしても手厚さは期待できないし障害者に対する知識があるかも分からない。	子供が母親以外の大人との関わり方が見たかったから
水泳に興味はあったものの、このような水泳教室が今まで見付けられなく、初めての経験でしたが子供自信も回数を重ねるうちに自信もついてきたように感じ、本人も続けたいという意欲があるため、継続して続けさせてあげたいです。運動を全くしてこなかった為初めての水泳の経験で水泳が好きになったのですが、このような水泳教室がなくなってしまったら運動をする機会がまたなくなってしまうと思いました。	水着になるのに抵抗があるのと、子供のレッスンの姿を見させていただきかけたので母親クラスには参加はしませんでした。
発達障がい理解し受け入れてくれるからスポーツクラブが ないため	レッスンの様子をみて、子どもと楽しかったこと、出来たことを共感したかったため
水泳はじめ運動をメインにした療育がほとんど無いので、頻度も時間も変わらないと思います。	今回母親クラスに参加できなかったのは体調が理由でしたが、参加しな
今回の教室のように発達障害者の子供達を受け入れてくれる施設がありません。一番大事なことは、障害者を受け入れてくれても障害者達に対するスタッフの理解力や配慮が欠けてると、長く通うのは難しいと思う。	一緒に入ると、子供が私に向いてしまい、先生からのレッスンをしっかり受けられないため
そして60分以上かけて高遠道路でこの教室を通ったが、長距離により子供は疲れてしまうのは非常に残念な状況である。	
今までは体を動かしたいけど運動は嫌で親との運動は義務でやっていた。今回は他の子が頑張っている姿を見たのもあり本人も頑張れた。健常児のように指導を受けて運動をすることができず友達同士で運動をする機会がない（学校外で大人がいないと遊びができない。）。今回のように自分が楽しんで運動をする機会はなく、今までの通りになるので運動の機会は減ると思う。	参加しました。
今回のような発達障害に特化した教室がないので、習わせられない	子供の様子を見たいから
運動の機会を増やしたいが、そのような施設や制度がないので難しい。	自分は泳げるので指導は必要なく、また子どものレッスンの様子をしっかり見たいから
現状に今のところ満足しているため	子どもの様子を見たかったから
何ともわかりません。	水着に抵抗があるので。
申し訳ありません。	水着に対抗あり。親がいると甘えたり、集中が持続しないため。
今、ほぼ毎日デイサービスやお稽古に通っているため。	
運動が大好きですが、子どもの特性に合わせた水泳教室はありませんでした。普通のスイミングスクールではついていけず、本人の自己肯定感が下がってしまうので、行きたいといわれても入れませんでした。親が教えるのは、集中できないので、難しかったです。今回の開催場所のプールは車で1時間以上かかりますが、たいへん貴重な機会なので、参加させていただきました。	母親クラスに参加させていただきました。
コロナで規制が多いため	参加したので特になし

Q16.自由なご感想、ご意見を些細なもので構いませんのでお聞かせください。「もっとこうして欲しい」などのご要望があれば、今後の活動に繋げられるよう努めます。
障害児を対象とする教室はあまりないので、是非継続していただきたいです。
一般的なスクールではついていけないばかりでなく、安全に通うことも難しく本人は自信を喪失し運動嫌いになってしまうため参加できずにいました。そのためずっと特性を理解して対応して下さる水泳教室を探しておりました。今回通わせていただき嫌いだっただけの水泳が好きになり自信になり継続を希望するほどになりました。今後もこのようなスクールを年間を越し継続していただきたいと強く望みます。 できれば通いやすい場所での開催を望みますが、片道1時間かけてでも通いたいと思うほど私たち親子には貴重な教室でした。
子どもの体調もあるので毎回の参加は難しいですが、また機会があれば参加させたいです。
色んな地域で、各スポーツ施設でこのような教室が開かれる事が望ましいのですが。まずは大阪でも継続的に開催してほしい。
短期集中で月2回、3ヶ月間位で習いたいです。
大阪でも継続してほしい
とにかく近くに同じような条件でプール教室が出来ることを期待しています。
子供に病気があったため運動を全くしてこなかったのですが、主治医から水泳は勧められていたためこのような水泳教室を探していました。子供自信も経験のない水泳でしたが、興味があり本人も習ってみたいという意欲がありました。体験教室ということで、初めは不安もありましたが、一回目のレッスン後には楽しかった、またやりたいと本人の希望もあって、全て参加させていただきました。子供の様子を見させていただいていましたが、先生の話をしっかり聞き、集中してレッスンをうける姿、一人ではなく、お友達と一緒に頑張ってる姿をみて、私自身本当にありがたい経験をさせてもらえてるなという感謝の気持ちとともに、子供達の楽しそうにレッスンをうける姿を見て、本当に嬉しい気持ちでいっぱいになりました。このような体験をさせていただいて、感謝の気持ちでいっぱいです。今後も特性がある子供達の為のこのような水泳教室の継続を本当に心から願っております。子供達皆とともものびのびと楽しそうにレッスンを受けてる姿をまた見続けていきたいです。親として、できることがあれば、何でも協力させていただきながら、ぜひとも水泳教室継続願っております。どうぞ宜しくお願い致します。
ぜひ、今後も継続してほしいです。子どもの表情がとても満たされていて、見ていて本当に親も満たされました。どうしても障がいの性質から、集団にはいれなかったり、叱責されることが多い中自己肯定感が低くなってしましますりしかし、このスクールに通い出来るが多くなり自信もついた様子です。先生方に感謝の一言です。これで終了となると、親子共にさみしいです。是非スクールとして成立させていただきたいです。
月に一回程度で構わないので、継続して欲しい。年下の兄弟は参加出来るようにして欲しい。
発達障害の子供も定型的な子供達と同様でスポーツが好きで、スポーツを通して心身の成長も期待できると思う。しかし、今、日本の現状は、残念ながらスポーツは最初からできる子供、レッスンの受け入れが早い子供、いわゆる定型的な子供達のために存在するシステムになっている。
発達障害の子供達も上手に泳ぎたい、走りしたい、ボールを投げたいなどスポーツに対する熱心な気持ちは誰よりも高い。しかし、それを支えてくれる施設は日本の中では、他の先進国に比べて極めて少ない。
また、発達障害の子供達もスポーツを楽しむ権利があり、国はそれをサポートする義務もあると思う。定型的な子供達と同じく、発達障害の子供達が楽しめるスポーツ場を設けてくれることこそ、日本も障害者に対する差別がなくなる国であると思う。
うちの子供は経験が糧になるので、同じスポーツの経験を積ませたい。今は短期（年間で1週間のみ）もしくは単発（月1回位か隔週1回の3ヶ月のみ）のレッスンはあるけれど継続して通えるレッスンがなく、スポーツの導入だけで終わってます。練習すれば技術が向上して楽しめるのに、ひとりもしくは親の指導では楽しめないで練習しません。長く運動を継続すれば挫折することもあります。技術の向上も挫折も運動を継続すればこそ体験できることです。「継続は力になること」を学習させたい。今後も是非継続お願いします。 親の夢は「アクアスロンにチャレンジ」です。 あと、今回の母親教室のように父親も参加したいと訴えました。
年間通じて開催してほしい。出来れば受給者証が使えれば良いが、一般的な教室と同じような料金なら通わせたい。
自費でも良いので発達障害児が通える少人数制の水泳教室を是非増やしてほしい
参加したレッスンがとても楽しかったようで、年間を通じて開催してもらえたら嬉しいです。
毎回の参加後に届くアンケートが、同じ内容でしんどいと思いました。
例えば、浮くことができるようになる等、子どもにもわかる目標設定をして欲しい。
近所のスイミングスクールのおためしには参加したことがありますが、まったくついていけず、泳ぐことができないと思っていたのに、この教室に参加したらメキメキ上達して、とても本人が喜んでいました。でも、やはり普通のスイミングスクールに行けるわけではないので、今後も教室を継続していただけたら、本当にありがたいです。本人も、また行きたい！と意欲を見せています。ぜひお願いいたします。
もっと頻度が多いといいと思う

【水泳教室 追跡アンケート（母親）】

Q1.参加された施設	Q2.参加された時期	Q3.自宅からのプールまでの所要時間	Q4.今回のようなスポーツ教室が実施された場合、どのようなスポーツ教室に参加してみたいですか？	Q5.今回のようなスポーツ教室が実施された場合、どのようなスポーツ教室に参加してみたいですか？	Q6.今回のようなスポーツ教室が実施された場合、どのようなスポーツ教室に参加してみたいですか？
栗山公園健康センター（東京）	10月、11月	30分以上～60分未満	2.水泳	6.ジョギング	10.バスケットボール
栗山公園健康センター（東京）	10月、11月	60分以上～90分未満	2.水泳	3.体操	8.ボウリング
栗山公園健康センター（東京）	10月、11月	30分以上～60分未満	5.ヨガ	8.ボウリング	6.ジョギング
栗山公園健康センター（東京）	1月	60分以上～90分未満	2.水泳	3.体操	9.サッカー（フットサル）
栗山公園健康センター（東京）	10月、11月	60分以上～90分未満	3.体操	4.縄跳び	10.バスケットボール

Q7.今回少人数制水泳教室に参加したことで、運動への意欲は高まりましたか。	Q8.本教室に参加後の、運動実施頻度を教えてください。	Q9.本教室に参加後の、1日あたりの運動実施時間を教えてください。	Q10.今回の水泳教室はひとまず終了しましたが、今後の運動の機会（実施頻度や時間）はどのようになるとと思いますか？
高まった	週に3日以上	1時間以上	増える
高まった	週に2日以上	30分未満	増える
高まった	週に1日以上	30分未満	増える
高まった	運動・スポーツはしなかった、わからない	全くしていない	減る
高まった	運動・スポーツはしたが頻度はわからない	30分未満	増える

Q11.上記の理由を教えてください。	Q12.自由な感想、ご意見を些細なもので構いませんので聞かせください。「もっとこうして欲しい」などのご要望があれば、今後の活動に繋げられるよう努めます。
目標を設定して運動する気持ちになったから。	今後も継続して欲しい。こういうレッスン方法は今までありませんでした。別々で泳ぎを習うことができて良かったです。今まで2人でプールに行って私が泳ぐ姿を子供が見様見真似して泳いで、子供は泳ぎ進めず挫折してました。今回、子供はレッスンを受けて泳げたことを私に少し見せて満足していたようです。一緒に習うと苛立つけどちょっと側にいつも別々に習えて子供との距離感が良かったです。
子供がプールを好きになったので行こうと思っているので。	なかなか障害者向けの水泳教室はないので継続開催してほしいです。
体を動かすことが気分転換になった。子供と一緒に散歩をする機会を増やした。コロナがおさまったら他のスポーツもしたい。	水泳以外でも親子で参加できる教室があると嬉しいです。
土日は子どもの療育などの教室は距離があり送迎が必要で、教室で待機していないといけないので、時間がありません。下に小さい子がいるので、平日の夜に家を空けることもできませんし、今回のように一緒に一緒に何かできるというのは本当にありがたいです。	今後も継続していただきたいです。年間通じてやっていただけるとありがたいです。
プールで泳ぎたいと思うようになったから	いろいろな種目にチャレンジしてみたい

【指導者研修 事後アンケート】

Q1. これまで発達障害児向けの水泳指導をしたことはありますか。	Q2. (Q1で「いいえ」とご回答された方のみ) これまで発達障害児への水泳指導に至らなかった理由を教えてください。	Q3. (Q1で「はい」とご回答された方のみ) これまでの発達障害児向けの水泳指導を行うにあたり、難しいと感じたことを具体的にあげてください。
はい		障害特性や個々の目標に応じて指導内容を確認しておかないといけないが、その時の雰囲気、状態に応じて臨機応変に対応しないといけない点。
はい		言葉の理解が難しかったり、真似をすることも難しい子どもたちの指導の際に、どうやって伝えたい事を伝える事ができるのかを考えながらの指導が難しかったです。
はい		やる気の急上昇、急降下が突然に起こること
はい		また、言葉による伝達が難しいため「できる/できない」「わかる/わからない」という生徒の状況の把握が困難
はい		怒ったときの対処
はい		泳ぎの始動内容を理解してもらうこと、指導時間を通じて集中してもらうこと
はい		子どもたちの興味や気分はその日ごとに変化するため、泳法指導ができない日があります。保護者が求めるものと、私たちがその日、子供たちとできたことに差があるときに難しさを感じます。気分が乗らない日にいかに興味や気分を持っていくかが今後の課題です。
はい		グループでの指導がむずかしい。
はい		天気によって気分やその日のテンションに左右されやすく、凶暴な面がでたりすると制御するのがとても難しい。特にてんかんをもったり、或いは自傷行為をしてしまったり。
はい		グループで指導する際、色んな音（水の音、別のグループの声など）、目につく物など、気になる事がたくさんある時の、指導者への目の向けさせ方が難しく思います。
いいえ	そのような機会に遭遇することがなかった	
いいえ	水泳が専門ではないから	
いいえ	周りに発達障害児が居なくなかなかイメージが持ちづかったため。	
いいえ	関わる機会がなかったため	
いいえ	機会がなかった、またはマンツーマンの指導に入る際、発達障害であるなどの情報の事前共有がなかった可能性もあります。	

Q4. 指導者研修を通して発達障害の知識・理解は深まりましたか。	Q5. 今後も発達障害児向けの指導者研修があれば参加してみたいですか。	Q6. 発達障害児向けの水泳教室があれば指導や補助をしてみたいですか。	Q7. Q6でそのように回答した理由をお教えてください。
はい	はい	はい	健常者に対するサービスは整っているが、障害者へのサービスは不十分なのが現状であり、自分の経験が少しでも役に立てば良いと思うため。
はい	はい	はい	障がいの有無に関わらず水泳は楽しいものだと思えていきたいからです。
はい	はい	はい	先日の教室が本当に楽しく、指導者としてのみならず人としてまた視野が広がったと感じた
はい	はい	はい	現時点でもしていますが、他者理解の勉強にもなるからです。
はい	はい	はい	発達障害児向けの水泳指導の機会が非常に少ないと感じる。自分の得意なことでも貢献できるのであれば今後ぜひほそりたい。
はい	はい	はい	発達障がいや知的障がいを持つという理由だけで虐げられるようなことがないように、今後も指導を行っていきます。
はい	はい	はい	誰でも楽しむことのできる水泳指導をしたいから。
はい	はい	はい	実際にスイミングスクールで指導にあたっているため、指導する場所が増えたら経験にもなる
はい	はい	はい	発達障害に関わらず、ひとりひとりの特性を把握して、より良い指導をしていきたいので、その為の経験を積む事ができればと思っています。
はい	どちらでもない	どちらでもない	興味はあるが、自分が指導者として向いてないと感じるため。
はい	はい	はい	指導をしてみてやりがいを感じたから
はい	はい	はい	発達障害児向けの水泳教室の意義や重要性を強く感じ、そこに貢献したい、また自分の指導スキルを磨きたいと考えたため。
はい	はい	はい	全ての人にスポーツの機会を与えられる機会になるとともに、いち指導者としても学びの多い時間になったから。スイミングスクールのような集団の中での上達は難しいかもしれないが、ひとりひとりの個性や特性を指導者側がきちんと理解した上で、生徒の意図を汲み取れるよう歩み寄れば、短い時間でもかなりの進歩を見ることが今日の教室を通じて実感できた。その意志ややる気と反してこれまでスポーツに関わるチャンスに恵まれなかった子たちにも、このような場を通じてその楽しさを知ってもらいたいと思った。
はい	はい	はい	マンツーマンでの指導では何も問題ありませんでしたが、大人数の中では難しい部分もあるかと思いました。こういった機会や場所がある事で、発達障害を持つ子ども達の可能性を大きく伸ばせると考えたからです。

【公共スポーツ施設へのアンケート】

Q1.これまで発達障害児向けの水泳教室を開催をしたことはありますか？	Q2.（Q1で「いいえ」とご回答された方のみ）これまで発達障害児向けの水泳教室開催に至らなかった理由は何ですか？	Q3.（Q1で「はい」とご回答された方のみ）どのような発達障害児向けの水泳教室を開催しましたか？	Q4.（Q1で「はい」とご回答された方のみ）これまでの発達障害児向けの水泳教室を開催するにあたって難しいと思ったことは何ですか？	Q5.ノウハウ、仕組み、指導者が揃っていれば、発達障害児向けの水泳教室を開催したいと思いますか？
はい	Q1で「はい」と回答	数ヶ月の定期的な水泳教室	特になし	どちらでもない
いいえ	集客が難しい	Q1で「いいえ」と回答	Q1で「いいえ」と回答	どちらでもない
いいえ	発達障害児向けの水泳教室を開催するという発想がなかった	Q1で「いいえ」と回答	Q1で「いいえ」と回答	いいえ
いいえ	発達障害児向けの水泳教室を開催するという発想がなかった	Q1で「いいえ」と回答	Q1で「いいえ」と回答	いいえ
はい	Q1で「はい」と回答	数ヶ月の定期的な水泳教室	指導者の確保、予算の確保、安全性への配慮、集客	はい
はい	Q1で「はい」と回答	1年以上の定期的な水泳教室	安全性への配慮	はい
はい	Q1で「はい」と回答	数ヶ月の定期的な水泳教室	教室を運営する時間の確保	はい
はい	Q1で「はい」と回答	Q1で「いいえ」と回答	教室を開催するプールの確保	はい